



目次

発刊にあたって	田 渕 賀 威	2
阪神・淡路大震災検証 ―心をひとつにがんばろう―		3
学校の被害状況(2例)		8
1 1月17日(火)午前5時46分。その時、その時から私は		13
2 各職場で起こったこと、忘れないこと		23
3 全国からの応援・激励		39
4 復旧から復興へ―神戸市高の取り組み―		53
編集後記		64

大震災

ひだり前の布団屋が店を畳んで
世間はひどく気の毒がったが
建て替えた店は

周りが瓦礫と化した震災の中で
ひとりポツンと

プレハブのしょう洒な建物で残った。

因業な煙草屋は

家もろともペシャンコになり

相似形の息子は更地に花を添えた。

普段からどうやって生計を立てているのか

不思議でならなかったお茶屋の人のいい主人は

「何十年かけてやってきましたか、

一から出直しですわ」と涙ぐむ。

誰にも予測できなかった不条理の中で
人々は安否を慰め合い、力なく笑う。

焼けて片付いたカーペット屋の自動車は
障害のある我が子を忘れ
避難所の飲料水確保に走り回る。

市場の洋服屋は

「仕事はなんぼでもありますわ」と

慣れぬ工事現場に出掛けていく。

瓦礫が片付けられるなか

もとあった建て物を主張する

風に鳴る境界のビニールテープ

生死を別けた一瞬の偶然のなかで

テープは風に鳴り

シヨベルカーはやかましく蠢く。

見慣れてしまった更地に

花があると

やはり涙ぐむ。



スケッチ・苦しんだ分だけ希望を（神戸市立須磨高校2年生）

神戸市立高等学校教職員組合

執行委員長 田淵 賀威

震度七の直下型地震が、神戸の町に想像を絶する甚大な被害を与えました。もちろん学校も例外ではありませんでした。

この記録集は、あの日から約六カ月間の教職員と生徒の苦闘の歴史を物語るものです。思い出すだけで身震いする衝撃と、そこから「学校再開」に向け立ち上がった市立高校・高専・園の姿が克明にまとめられています。また、いまだかつて経験の無い状況下で、組合員と生徒への救援活動と避難所となった学校への支援に奮闘し「教育をまもり再建する」市高のとりくみを記録しています。

これらのとりくみを振り返ってみますと、あらためて教職員・組合員の全国連帯の温かさと強さを感じざるを得ません。物心両面に全面的な支援を頂いた全教本部をはじめ各県教組・高教組と大教市高教組各単組に改めてお礼を申し上げます。

また、全国各地から心のこもった激励をいただき感謝の念に耐えません。

いま、神戸市教育委員会は、震災経験をこれからの教育にどのような生かすかをまとめようとしています。その一つの素材として役立つものではないかと思いい刊行をいそぎました。学校の被害状況、組合日誌やニュース等の膨大な資料は別冊でまとめる予定です。

最後になりましたが、あの大地震がまだ夜も明けきらない早朝の出来事であったことをどう考えるのか。復旧・復興や防災が議論される時、この事が私の脳裏からなかなか離れてくれません。

一九九五年八月

1995年2月28日

各県・高教組委員長様
各市立高教組委員長様
各政令指定都市教組委員長様

神戸市立高等学校教職員組合
執行委員長 田淵 賀威

阪神大震災被災地、神戸市への ボランティア派遣のお礼

大震災から40日が経過しました。いくつかの商店街にも灯りがとまり、ようやく落ち着きと「復興」への活気が戻ってきています。しかし神戸の街全体は、いまだ倒壊したり焼け落ちたビルや家屋の残骸が無残な姿をのこし、あの大地震がいかに強大で甚大な被害を市民にもたらしたかを示している状態です。

学校ではライフラインの復旧がまだすまないもとで、いまだ数多くの市民が避難生活を続けており、不自由な生活を余儀なくされています。住民の殆どは仮設住宅が一日でも早く建設されることを望んでいます。その過半数は思うように進んでいません。また、家がなくなったうえ職場がなくなりまくった行き場のない方もあります。

このような状況を目の前にして、私たちは学校が、当分の間教育の場としての本来の機能と避難所としての役割を果たしてゆかねばならないと覚悟を決めています。それにしても政府が「予算の組み換え」要求を無視するなど、被災された住民に対する冷たいしるしに怒りを禁じえません。

ようやく全ての学校で授業が再開されたと報道されていますが、先の様な状態ですから、分散し間借りでの授業や短縮などでやりくりをしているところが殆どで、「正常な教育活動」にはほど遠いものです。この月末には卒業式を、倒壊を免れたり避難所にならなかった講堂を使ってやっとの思いで挙行することができました。卒業生はさぞかし情け無い思いをしたのではと心が痛みますが、「ぼろぼろになってしまった学校を元の活気のある素晴らしい学校に再建してください」との力強い客評の言葉を授け、巣立っていったことに感謝しています。さすがにこの時期に「日の丸・君が代」を強行する校長は出てきませんでした。卒業生へのせめてもの饗になったのではと思っています。

いま私たちは、被災した教職員と教員子への救援活動とともに一日でも早い学校教育の再建に全力でとりくむことが最大の課題だと考えています。それにしても、学校施設の殆どが避難者の生活の場になっている現状は短時間で解決できるものではなく、学校教育の今後におおきな不安を抱えています。

震災復興にあたってややもすれば軽視されがちな学校が、多くの市民の生命をまもる拠点となったことを重視し、損壊した校舎の早急な建て替えを要求してゆきます。また新しい神戸のまちづくりの中核に教育が位置づけられ、一日でも早く「正常な教育活動」が保障されるよう奮闘する決意です。ひきつづきの御支援をお願いいたします。

さて、震災直後から救援の物資や義援金など多大の御援助ほんとうにありがとうございました。心よりお礼申し上げます。また、避難した教職員や学校などへの数多くのボランティアの派遣をいただき大きな励みを受けました。私たちの受入態勢が不十分なため、なにかと礼を失したことがあったのではと心を痛めています。ボランティアのみなさんにお伝えいただければ幸いです。

さて、この度神戸市教育委員会と別紙のとおり「申し合わせ」をとり交わすことができました。市教委は、全教・日高教や教組共闘、大都市高協が震災直後から義援金や救援物資を寄せられ、積極的にボランティアを派遣していただいたことに深く感謝しています。このため私たちの要求に応じ、「申し合わせ」を交わすことでお礼の意を表明しています。

文部省はボランティアの派遣に対する助金の取扱について「出張」等の扱いを示唆していますが、組合活動とは一線が画されているのではと考えます。このため、この間の御支援に対し「申し合わせ」がお役にたてれば、本当にささやかではありますがお礼の意を表すことが出来るのではないかと思い送らせていただきました。

今後も御支援と御協力を願います。引き続きの御厚情を心よりお願い申し上げます。

阪神・淡路大震災

検証



心をひとつに
がんばろう

この度の阪神大震災にあたって、尊い生命を犠牲にされた五、五〇〇余名の方々と家屋を消失された皆さんに心から哀悼の意を表します。幸いにも組合員の方々に犠牲者は出ませんでした。ご家族の方そしてまた私たちの教え子に多くの犠牲者が出たことを思うとき、無念の思いをあらたにいたします。

地震直後から私たちは全力をあげて、被災された組合員・教職員の方々と児童・生徒達が一日も早く「正常な生活の営み」を取り戻せるよう支援のとりくみを進めてきました。また、施設に大きな被害を受け、その上避難所となった学校で「正常な授業再開」が出来るよう奮闘してきました。いま被災した学校園は、応急復旧や倒壊校舎の解体撤去はされたものの、仮設教室での授業、実験・実習教室の不足、グランドも使えない状態です。さらに「避難所」として依然大きな役割をはたしており、防災３号指令が解除されたにもかかわらず宿日直体制がとられて、教職員に大きな負担を余儀無くしています。

一、地震の発生と震災の状況

① 一月十七日午前五時四六分、淡路島北部を震源とする震度七の直下型地震（須磨区南部から西宮夙川の約二〇キロ、幅一キロ）は神戸市をはじめ阪神・淡路地域に甚大な被害をもたらしました。五千五百人を越える死者、二万七千人にのぼる負傷者に加え、家屋の損壊は十一万棟を数えました。神戸市では死者三、七六九人、負傷者

一四、六七九人、家屋の全・半壊約八七、〇〇〇棟、四八五件の火災によって約七、〇〇〇戸が消失、その面積は長田区・兵庫区を中心におよそ六五ha（市街地の一％）の広さにおよびました。（二／十六神戸市発表）また、ガス・水道・電気のいわゆるライフラインは壊滅的な被害を受け、主要な交通機関も途絶しました。このため最大二三万五千人が避難生活を余儀なくされ、避難所で困難な生活を強いられました。

港湾施設の大規模な損壊や神鋼や川鉄等の製造大手企業の損壊、ケミカルシューズ、酒造メーカー等工場産業の壊滅や大規模百貨店や主要ホテルの営業停止、商店街の三分の一・市場の半数に甚大な被害が発生し、まさに未曾有の震災となりました。

② 被害総額十兆円と言われるなか、神戸市と関係団体の被害総額は二兆四七〇〇億円と概算され、港湾局の約六五〇〇億円、住宅局の一九〇〇億円に次いで教育委員会が第三番目で約一三〇〇億円となっています。九四年度的一般会計総額が約一兆円ですからその被害の甚大さは説明するまでもありません。とうてい一自治体の負担によって復旧・復興できるものでなく、国の責任でやらねばならないことは明らかです。

二、教育関係の甚大な被害状況と避難所状況

① 市教委のまとめ（二／十四現在）によると、児童・生徒一七八人、

教職員十一人が尊い生命を失いました。高校生十七人（五校）、養護学校二人（一校）、幼稚園四人（三園）が含まれています。学校の校舎の損壊も甚大で、全市三四五校園中二三校園が被害を受けており、全半壊や傾斜・消失等で建て替えを要する数は四〇校園にのぼっています。この中で高校は四校（神戸商業・神港・長田工業・須磨）が被害甚大、御影・西野の二園が全壊し、神戸商業の管理棟、神港の中館の一部、西野、御影幼は解体撤去されました。全半壊や火災で家屋を失った生徒の数は一、三三三人、避難所生活をしている生徒は一、七六三人で市高生徒の二〇%にあたりと当初発表されました。しかし、その後（四月末）私たちの調査では、全壊・半壊は高校二、七〇六人、幼稚園三八二人、障害児学校四四人、高専二五人総計三、〇八八人在籍生徒（児童・幼児）総数一万三千人中二四%にも及ぶ甚大な被災状況でした。両親を亡くした生徒（五人、三校）、父或は母を亡くした生徒（十四人、七校）の痛恨を思い心が痛みます。

② 教職員の被害も甚大です。全半壊や火災で家屋を失った教職員の数も多く、その多くが学校等の避難所での生活を余儀なくされました。私たちの調査（四月末）では死者はありませんが、家族を亡くした方六人、家屋家財にいたってはほとんどの方に被害が出ています。「罹災証明」による全壊・全焼で家屋を消失された方は六七人、半壊・半焼九二人、一部損壊等甚大な被害は二二二人に上り、九〇〇組合員の四二%が被災しました。

③ このような被害のもとでも学校園は避難所として市民に開放され、数多くの市民の生命を守りました。最高時一九一校園、十三万七千人、二月中旬で一六一校園、約十一万人が避難しており、高校では十二校、障害児学校二校、幼稚園一〇園が避難所になり、最高時一、五〇〇人を数えた学校もありました。

三、救援活動と全国からの支援

① 十八日には書記局活動を再開し、緊急連絡で「防災指令三号が発

動される重大な事態であること。甚大な被害が予想されるため、組合員の安否・生徒の安否とともに学校施設の被害状況を確認するよう」全分会にファックス送信しました。しかし、数分会にしか連絡が届かず十九日に再び連絡し、併せて「予算・定数のとりくみの停止」を伝えました。市教委には十八日これを伝え、災害の実状把握と生徒・教職員の安否確認に全力を尽くすとともに可能なかぎり協力態勢をとることを伝えました。

二四日の拡大闘争委員会では、この非常事態にこそ組合員が一致団結し、仲間を守り、生徒を守り、学校を守るため全力で奮闘することを強く訴え、救援活動が組織的に開始されるようになりました。

② 全教・日高教と教組共闘は予定されていた全国教研の全体会を中止し、組織をあげて支援活動にはいることを確認するとともに、教研参加者に支援のカンパを訴えました。十九日には早くも尼崎に全教現地対策本部を置き、同日近畿ブロックの支援物資が東灘に運ばれ、日高教石井委員長の激励の一報が書記局に入りました。拡大闘争委員会には、日高教・近高連・大都市高連の代表や高教組本部と他支部が激励に駆けつけ、支援に全力を尽くすことが表明されました。その後近畿ブロックを中心に各県から神戸に入ったボランティアは、高校・障害児学校・幼稚園や被災組合員への支援の活動を行いました。近畿以外の大都市各高教組からは激励とともに多額の見舞金が寄せられています。この義援金が児童生徒への就学援助金（見舞金）の資金となりました。また、全教からは一千万円を越える義援金や支援物資が市教委や市高に寄せられました。

③ 「市高退職者の会」役員会は電話や葉書を使って退職教員の安否確認を行い、家屋が損壊し避難生活を余儀なくされた会員に個別に訪問、見舞金を手渡し激励を行いました。

④ 全国からの激励に励まされ、学校現場では仲間への救援活動とともに生徒の安否の確認のため家庭訪問や電話、避難所訪問を危険を省みず行いました。また、当面緊急な生徒の進路保障や卒業式、入学試験に対応する態勢づくりに努力しました。学校園再開は保育や

授業の形態を別にすれば二月末に完了しました。

市高はこれらの学校現場の努力に応えるため、拡大闘争委員会を「対策本部」に切り換え執行委員会で被災の状況と具体的なとりくみを確認し、情報の提供と被災組合員の救援、被災生徒への救援を進めてきました。同時に教職員の勤務問題、年度末人事、施設設備緊急復旧、生徒の進路保障等の対策を市教委に要求してきました。

学校での最大の課題は避難所としての対応でした。避難所指定にされていないところでは当初混乱に陥りましたが、学校では避難住民の自治組織を早く組織し、住民と教職員そしてボランティアが一体になって困難な状況に対応することができました。連日泊り込み体制をとり、水や食料の搬入と分配、トイレの確保、住民の相談や要求の処理等を教育活動の再開という本来の任務と並行して行う労苦は計り知れるものではありませんでした。

⑤ 一月二八日尼崎市内の高校生徒会交流会が自らも被災地域でありながら、神戸の被災状況のひどさに驚き支援活動を企画し、全国の高校生徒会に救援のアピールを発表しました。また名古屋市立高校や各地の生徒会が個別に支援活動をすすめ、激励してくれました。二月十八日葺合高校で、アピールにもとづく生徒会交流がおこなわれ、その後も交流の幅が広がっています。七月三〇日には「被災高校生を上げます集い」が長田工業で開かれました。

市立高校生のボランティアが避難所での炊出し、物資運びなどで活躍しました。自主的で主体的なこれらの行動をみると、あらためて青年のエネルギーや正義感・連帯感の強さを感じます。

四、天災で済ますことは許されない

① 地震直後の記者会見で、政府の対応の遅れを批判された村山首相の発言は「初めてのことで、朝早かったのだ」というものでした。また、政府やマスコミは「関東大震災をこえる予想をはるかに上回った大地震」と宣伝し、この度の大地震がやむなき天災であるかのよう

にしたのが漸く二十四日になったことは、政府の怠慢を如実に示しています。国会では災害救助の体制が遅れた要因を「自衛隊の派遣要請」にのみ求め、「危機管理」と称して自衛隊法の改悪を策動する政党も出てきました。消防施設や要員を確保する防災体制の不備や地震予知体制軽視がもたらしたこの度の大地震を、あたかも自衛隊の出動が早ければ防げるかのように宣伝したり世論誘導する姿勢は、被災した住民の心を逆なでするものでありません。復旧・復興の財源を消費税の引き上げによって行おうと主張する政党もできました。

② 財界と大企業は九五春闘を目前にして値上げゼロをいち早く宣言し、被災地の工場移転や閉鎖、従業員の首切りや新規採用者の雇用内定取消や待機を通告してきました。自らの利潤追求のために被災した住民の生活をも省みない、反社会的で情け容赦のない姿勢を認めることはとうてい出来るものではありません。

③ 全教（二／十四・十五）・日高教（二／一五・一六）のそれぞれの特別大会は、「阪神大震災の復旧と防災体制の確立、学校のすみやかな機能回復を九五国民春闘の重要な課題」と位置づけ、軍事費優先・大企業優遇・「臨調」行革推進の政治を国民のいのちとくらし、教育をまもる国民のための政治に転換させる大運動を展開する事を確認しました。そして引続き「一日分の賃金の拠出」カンパにとりくむとともに、阪神大震災緊急要求署名（住宅確保・教員の定員増・損壊した学校の改築・修理を国の責任で・労働者の雇用確保と就職内定とりけしに対する政府の指導）をすすめることなどを決定しました。

④ 兵庫労連は全国の支援活動の窓口としてまた、県下の労働組合や民主団体の支援活動を組織し大奮闘しました。さらに県や市に対し緊急要求を提出し、事態の打開のため、住民の立場にたつて全力を尽くすよう強く要求してきました。二月末には「震災復興県民共闘会議」を県下の民主団体とともに結成し、県や国への要求行動を組織しました。

五、神戸の町の復興にむけて

① 神戸市は一月二六日「神戸市震災復興本部」を設置し、二月十五日臨時市会で補正予算を組みました。二五八〇億円の補正は一般会計予算の四分の一を越えています。このうち教育関係費は八六億円強で、学校の災害復旧費を計上しました。

② 九五年度予算は復旧復興を軸にした「骨格予算」として提案されました。予算総額は前年比七〇〇億円増（三三・三％増）の二兆七八〇〇億円。内一般会計が六〇・九％増で二兆五三〇〇億円となっています。予算の大部分は震災関連事業費で、これをの除くと前年比一〇・五％、二〇〇〇億円が減少しており、一般会計での震災関連は六七〇〇億円になっています。歳入をみると、市税の減少を七四〇億円（二五％減）と見積り、国庫補助金（二三九％増）、市債（三一〇％増）と基金の取り崩しによってつくられたいわば借金予算です。一方歳出では通常経費は軒並減額され、新規事業はストップしています。震災対策関連で災害復旧費が四一五〇億円、住宅費二六〇〇億円（二三三％増）、商工費が八四〇億円（八三％増）となっています。教育費は前年比二二％減の七九〇億円で衛生費について大きな減額予算になっています。総じて震災復興に重点を置いているための基盤整備に比重が掛けられた予算編成を行っています。

③ 教育委員会関係予算の内訳をみると、総額七六〇億円で前年比十七％減、内九四億円が教育施設災害復旧費となっています。経常経費（人件費・物件費）の削減はほとんどなく、臨時費（補助事業・単独事業・消費的経費）が大幅に削減されています。新規事業が軒並ストップされるなかで、幼稚園の二年保育関連費や新構想高校検討の予算は確保され、懸案であった心臓病検診費用の公的負担、御影工業のワークステーションや葺合・兵商のしし教室や神戸西の地学教室が新設されることになりました。また、特別教室の冷房や新規格の教員用机も前進しています。

④ 市の復興計画は「災害に強い新しい町神戸」の実現にむけ、三月

末にガイドラインを定め、四月に「復興計画審議会」を設置し、六月に計画を策定しました。

六、学校再開から再建・復興へ

① およそ一か月間の休校が続いた被災学校園は、施設設備の安全確認と生徒の安否確認が進み、交通機関の応急復旧がされるなかで二月末には「学校再開」が実現しました。しかし、ライフラインが復旧せずその殆どが短縮処置によるもので正常な教育活動には程遠いものでした。施設設備が避難場所に使われた学校園では、卒業式を他校の講堂や体育館を借りて行う状況でした。入学試験は施設設備の大部分が避難所となった楠分会以外はかうじて自校で実施することが出ています。

四月に入って仮設教室が建設され新年度を迎えましたが、十六校中十二校で依然避難所として教室・体育館・講堂や会議室、グラウンドなどが使用され、加えて校舎やグラウンドの損壊のため不自由な教育活動を強いられています。文部省や関係機関に仮設住宅の建設を急ぎ「避難所の解消」をと強く訴えてきましたが、この状況の改善に明るい見通しは立っていません。施設設備の復旧工事はやむなしとしてもせめて教育活動に専念できる場を保障するよう引き続き要求する必要があります。四月二四日市教委に対し「震災復興に関する緊急予算要求」を提出しこれらの条件整備が焦眉の問題であること指摘しました。

② 高専の専攻科設置予算は震災で頓座しましたが、市教委はその計画を放棄していません。高専分会は全大教高専協議会の教研集会や分会で引き続き研究協議を重ねています。職場の合意が得られれば、市高としても引き続き積極的に要求し高専の発展に寄与しなければなりません。

幼稚園の二年保育を検討する市教委の「幼児教育振興検討委員会」が再開されました。震災後の幼児の動向、私立幼稚園の被害状況と復興などを勘案し、公立の二年保育の実施について検討を急いでい

ます。全市百十一園の私立幼稚園の被害も大きく、四園が廃園となっています。公立の統合を伴う二年保育の方向に対しては、幼稚園部の議論では「やむなし」との考えも出ていますが、統合によって働きやすくゆとりのある園が実現するように要求することが緊急に求められています。

震災によって市教委の「パイロットスクール構想」も中断せざるを得ませんでした。これにかわって、最も被害が甚大であった第一学区の復興が学校再編を伴って浮上し、市教委の「検討委員会」が再開され、六月末の市の復興計画策定期までに大筋の合意を得る日程で検討が進みました。市高も昨年度の「学級減対策委員会」を再開し、今後の生徒の減少動向や神商の復旧・復興について協議しつつ、市教委の「再編」問題に対処していきます。私たちは、機械的な統合再編反対、生徒を差別選別し、袋小路に追い遣る多様化学校反対を基本姿勢としてこれに対応してゆきます。

障害児学校の震災復興の課題で重要なのは、広域の通学圏のもとで安全な通学、就学援助など安心して学校生活ができるよう最善の条件を保障することに有ります。スクールバス、点字ブロックなどきめ細かい要求の実現にとりくむことが求められています。

③ ここ数年は震災復興が最重点になり、厳しい予算の中でその多くが震災関連に注ぎ込まれることとなりますが、学校教育がそのことを理由に削られ圧縮されることは容認できません。今後もし高教育の復興と発展を目指し、正々堂々と要求し、豊かな教育条件のもとでの教育活動が行えるよう運動を強化しましょう。必要であれば文部省をはじめ国にむけた行動を積極的に展開することをすすめましょう。

ここ数ヶ月の私たちの活動は教師としての、そして人間としての在り方を問われるものでした。また、市高教組の存在そのものが問われたものもありました。

市教委は、私たちのこの間の奮闘ぶりを目の当りにし大いに感謝し、高く評価しています。



組合員の市高に対する信頼感が、分会長を始めとする分会執行部の救援活動を通して一層強固になったのではないだろうか。また組合員間の連帯のきずなが強まり、仲間を大切にするからこそ組合活動の基本であることを再認識できたのではないだろうか。

この間夢中で活動を行ってきました。決して充分なものではありませんでした。いろいろと問題もあります。ただ執行部が最も重視したことは、未だ経験のない状況の下で全ての組合員・教職員が「心一つにして」頑張ることでした。予想されるこれからの困難に対してもあらためて皆さんに訴えます。「心一つにして」共に頑張らしましょう。

学校の被害状況（2例）

今回の震災で学校に起ったこと

●神戸市立神港高等学校

① 家がつぶれ、崖が崩れ、ガスが漏れ、地域の人々は近くの学校に避難しました。避難所に指定されていない高校、幼稚園、障害児学校も例外ではなかった。

・次々と集まる避難者を体育館、教室に収容。どちらに入れたかで後に影響。

体育館………多人数を収容できるが、人数の集約、班作りが困難。プライバシーを保ちにくく、長期化するとストレスがたまる。暖房が効きにくい。

教室………人数の集約、班作りがやりやすい。プライバシーも保てる。暖房も効きやすい。ただし、授業が始まると教室が使えない。

② トイレ、水汲み、ごみ処理

水洗便所で水が出ない場合、毎回水を汲んで流すか、定期的に清掃するかどちらかで対応していた。紙については流さないよう汚物入れに入れるようにしていた所もあった。水洗便所の場合、一度つまると後が大変。避難人数に比べてトイレの数が足りず仮設のトイレが来るまで、学校の周りの汚物処理が必要だった。

③ 食事、毛布、救援物資

始めの一週間、食事や毛布が定期的に届くようになるまで、炊だしの出来た所はよかったが、そうでない所は食事の確保が大変だった。初期は炊きだしのボランティアが非常に喜ばれた。避難人数よ

り少ない物資については平等に配付できないため、倉庫に眠ったままになった。

④ ボランティア

全国から沢山のボランティアが来てくれたが、学校では彼らを十分に生かす体制が取れなかったところが多く、逆に気を使わなくてはならないので迷惑がられる事もあった。ボランティア同士で体制を組むことができていた所もあった。学校がリーダーシップを取りながら、ボランティアに協力を求める体制ができていた所は、後々学校が再開していくときうまくいった。炊きだしや肉体労働だけでなく、医療や生活関連の特技を持った人の協力が必要だ。

⑤ 遺体安置所

斎場が使えないため、学校に次々と死亡者が運び込まれ、棺桶作りから納棺まで職員がせざるを得ない所もあった。





●中館（取壊し済）



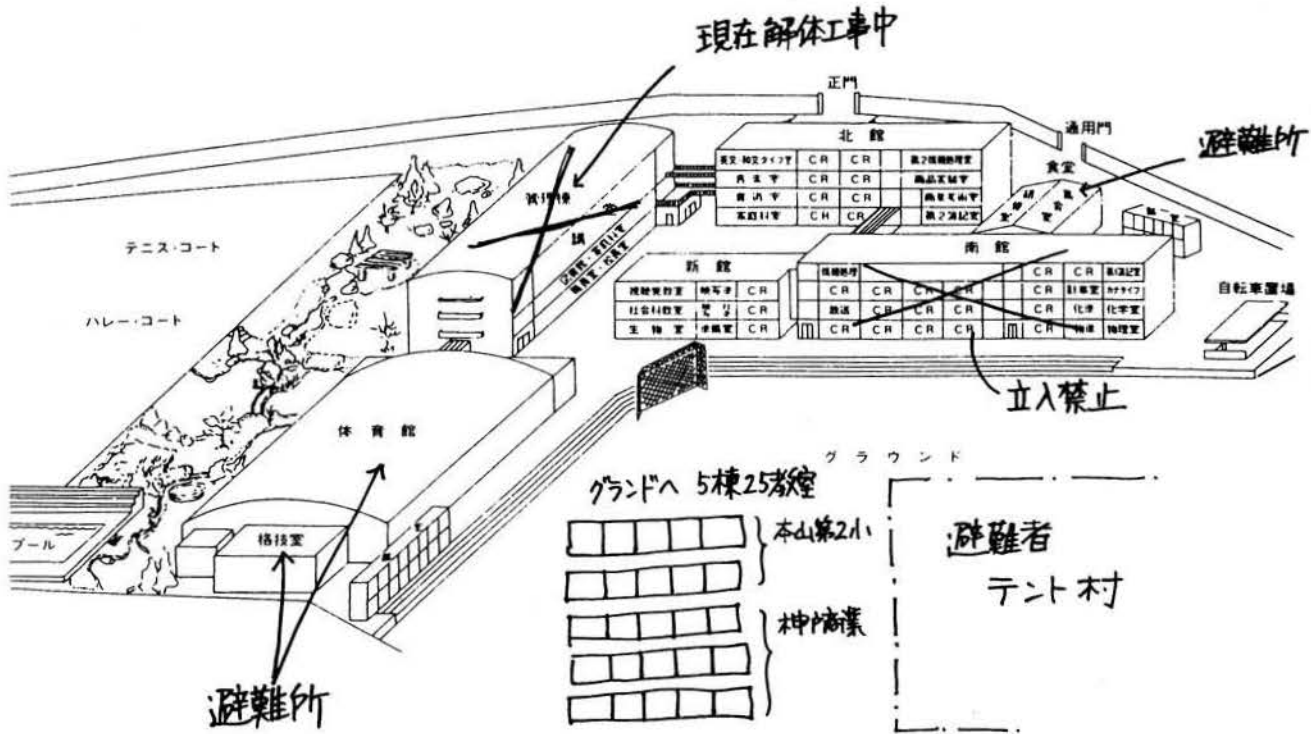
●中館 4 F 情報処理実習室



●解体工事の中館

早急な校舎の建て替えを

● 神戸市立神戸商業高等学校

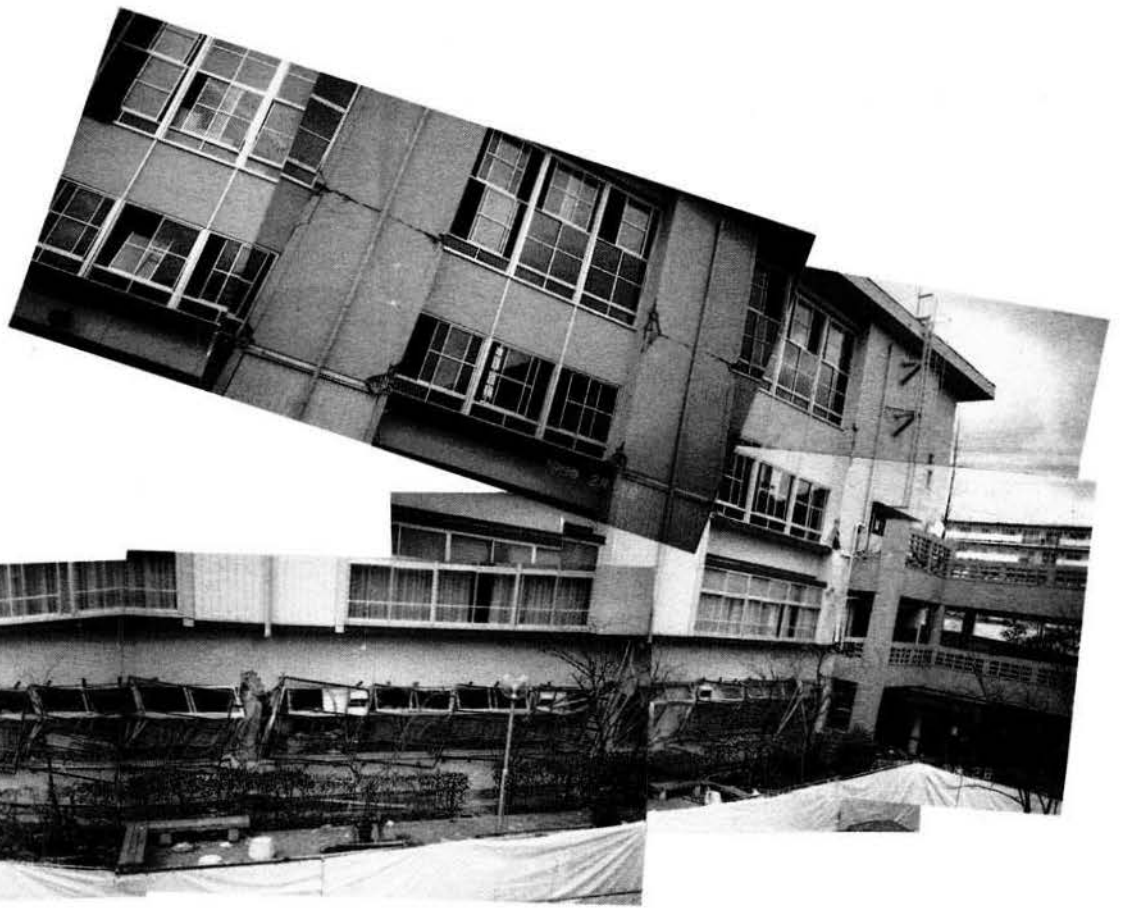


管理棟は

写真が示すように、大変な被害です。

教職員の必要な書類や教材などが危険なため取り出せなくて困っております。

三、四階は、講堂兼体育館で、部活動でも使っていたので困っています。二階は図書館があり、本もあまり取り出せなくて大変です。

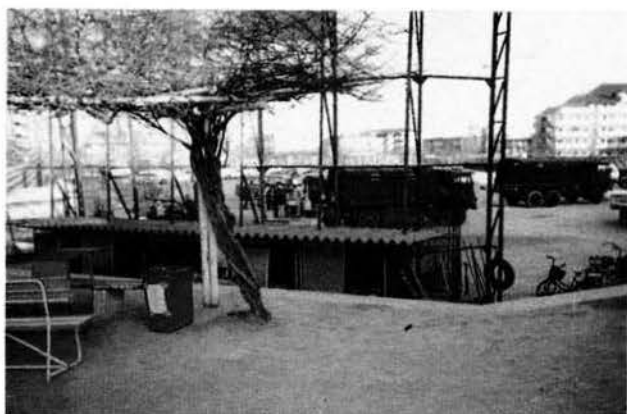


管理棟内部の様子を示す写真

非常に危険であることがわかると思いますが
備品などもほとんどこわれ、困っているのが現状です。



避難してきている人たちと、朝のラジオ体操



テント村

『神戸復興に大切な世代』

瀧川 勝三（神戸工業分会）

連休明けの平成七年一月十七日火曜日、午前五時四十六分。生涯忘れようとも忘れることができない。多くの大切な命を奪い、幸せな家庭の団らんを奪い、多くの涙を奪った。幸運にも命が助かったある人は、涙が乾くとまた明るさを取り戻し、精一杯前向きに生きようとしていた。一方、同じ神戸市内でもこれまでと何ら変わらぬ生活を送っているように感じられた町や地域もあった。「神戸は本当に被災したのか」、そんな気持ちが頭の中を何度も何度も駆け巡った。心身ともに被災していない人の存在が問題になってしまった。物見遊山の素人カメラン、火事場泥棒、無関心人間。しかし、五千余人の死者を出し、さらに、ボランテアや避難所職員などの激務による過労死、ストレスからくる胃潰瘍、交通事故等の二次災害まで報じられているのは紛れもない事実であり、その状況は百日以上経った今もあまり変わっていない。避難所では数万人の人が狭いスペース・寒い廊下で、助け合っている現状があり、板宿・長田の焼け跡や灘・東灘の倒壊家屋を見る度に恐ろしさが蘇り全身が震える。

地震当日、担当の化学準備室の火災が心配になり急いで出勤、散乱した薬品の整理をし、胸をなで下ろした。そのとき、まさか教え子を失っていたとは……。その事実を知った翌日、今春高校卒業を祝う筈だった他校の教え子をも失っていたと知った。生徒の安否を調べるのが怖くなった。しかし、とにかく自分の目と足で確かめようと背中地に地図、名簿、差入れのゆで卵、おにぎり、果物等を入れたリュックを担ぎ、避難所を一つ一つ歩いてまわった。そして体を疲れさせた。そうすることで気持ちを紛らわせ、ごまかしていたように思う。結局、クラス生徒全員の安否が確認できたのは一週間も後だった。

やがて、避難所になっていない本校は登校日を迎え、困難の中、登

校してきた生徒と共に「今、自分達ができること、すべきこと」をホームルームで連日話合った。被災にあった生徒はこれまでよりもひと回り大きくなったようにも思えた。その後、クラスで取り組んだことは、避難所をまわって洗濯物を集め、自宅や学校で洗い、配達すること。それまで洗いたくても洗えずに困っていた人にとっても喜んでもらっている。「助かるわ。ありがとう。」疲れた心にエネルギーを注がれる気がする。そして、この活動も三カ月が過ぎ、延べにして五百軒を超える方々の洗濯ができています。その陰には毎週末協力を頂いている名古屋周辺や垂水区・西区等のご家庭やその生徒、生徒会執行部、保健・家庭科・生徒会等の先生方、そしてそのご近所の方々、育友会の方他、本当に暖かい支えがある。

近頃、ようやく行き先が決まり、避難所を後にする方と挨拶を交わす機会がある。嬉しい気持ちよりむしろ、こみ上げる寂しさで胸が一杯になる。ボランテアの撤退や自立が叫ばれる一方でまだまだ多くの方々が仮設住宅にすら入居できずに困っている現状がある。そんな中、指示待ちボランテアは余っていたという。今、必要なのは、「考える人」ではなく、「考えて行動が出来る人」ではないだろうか。考えるだけでは何の力にもならないのだから。われわれは、改めて「継続して行動することの大切さ」と「人と人の暖かい心のつながり」を感じているところである。

戦争を知らないわれわれは、この災害を克服し、そこからより多くのことを学び、次の世代に伝え残して行かなければならない。そして、目の前の生徒達の世代もまた、新しい神戸復興のために、重要になってくることは間違いないのである。だからこそ、今、この大切なときに現実をしっかりと見据え、残された生徒と共に、考えて行動できる人間でありたい。

死の直前の気持ちを経験

しゃつくくん(ペンネーム・神戸高専分会)

その時私は、前夜から研修先の神戸大学工学部の研究室に泊り込み、ある論文を完成させるべく、数人の学生と文章や図面を作成していた。ガタガタときてすぐに停電となり、真っ暗闇となった。そのあと、グラグラ揺られ続けた。建物が徐々に傾いていった(そう感じた)。「あーあー、建物の下敷になって……ああもうだめだ。おれの人生これで終わりか」。死の直前の気持ちを経験した。揺れが治まったとき、不思議にも、床は正常で、まっすぐ立てた。この不思議さは、後日、大きな横揺れの加速度(六甲は震度七)と鉛直下向きの重力加速度が合わさって、斜め下方向に合計の加速度を感じたためだと説明を受け、理解できた。

さて、真っ暗の中、壁伝いに手探りで三階から一階まで降り、窓から外へ飛び出した。車のラジオで「震源地は淡路島北部です」と聞いたとき、私は再びパニックになった。自宅は明石市二見町である。「六甲でこの揺れなら、より近い二見はどうなっているのか」。即座に、マンションの倒壊を想像した。(このときに、活断層の方向性を知る由もなかった)すぐに電話をしたがつながらない。帰るしかない。車で大学を出た途端、目の前に広がる状況は、私を身震いさせ、まずまず家族の身を案じさせた。家屋・ビルの倒壊・火災、道路の地割れ・段差、落下しかけの高速道路、消えた信号機、車の渋滞。六甲から明石の西端まで、地震直後の光景は今でも目に焼き付いている。明石の中心街を抜けると、被害がなんとなく少なく思えた。さらに二見に近づくにつれ、明らかに被害が減っていた。大丈夫なのか。角を曲がるとき、大いに緊張した。マンションは立っているか。立っていた。「よっしゃー!」。車を止め、部屋に入ったとき、「大丈夫か!」、私は大声で叫んでいた。妻は大学関係者に電話をしていた。私の姿をみ



スケッチ・神戸市立須磨高校2年

た途端、腰が抜けたように崩れ落ち泣きだした。地震発生から約三時間が経っていた。「半分あきらめていた」と言ったとき妻は号泣し涙が止まらない。妻の気持ちが痛いほど分かる。ごめんよ。ただ私は抱きしめた。子供達のはしゃぐ声と、妙なコントラストを描いていた。物理的には、食器が割れる程度の被害しかなかったが、連絡不通の三時間を感じた精神的苦痛は、今でも忘れられない。不安、焦り、自己嫌悪、自責。家族のために頑張っているはずが、いざというとき力になれなかった。大黒柱として落第だ。でも家族が全員無事で、またやり直せる。頑張ろう。今そう思っている。

被災うた日記

鞍本 恵美子（長田工分会）

あの悪夢の一瞬、長田区のどまん中にあった築古年のわが家は無残に倒壊した。

○終末の刻^{とき}至るやとくらやみの

中を地鳴りの轟く聴けり

心強かったのは友人、知人、同僚の人々のさまざまな支援があったことだった。

○自転車^あで単車で徒歩で瓦礫越え

吾をたずね来る友のいくたり

そして母校の小学校での避難所暮らしの二週間。毎日とても多忙だった。

○被災者と呼ぶる身となり使ひ捨ての

容器に受くる雑炊の湯気

○被災してはじめてもらふ握り飯の

握り手は誰そ合掌して食ぶ

○一本のバナナ隣人と分け合ひて

階段の踊り場に寝むとしてをり

○ペットボトル一本の水に二時間を

並びて焼亡の街見てをりぬ

○加茂川町のうどんですよと差し出され

両手^{もちて}に受くる人のやさしさ

○被災者は皆しずかにて諍ひも

なさで給水の列に並べり

○靴のままたたみを歩き服のまま

シユラフに眠る冬の雨降る

○新築の母校避難所となりてより

日々少しずつ汚れゆくなり

それでも日々はすぎゆく。

○いつ泣くのかいつ泣くのかと思ひつつ

泣かざるままに一月が過ぐ

○生まれ育ち五十余年を生きて来し

町は焼け失せ如月の風

幸いにも同僚の協力、支援を得て、新しいすまいに転居することができた。

○罹災して移りし町は庭先に

水仙咲きて潮香る町

職場の皆さん、目をみはるようなパワフルな支援、ありがとうございました!!

私と地震と組合と

西山 正秋（神戸高専分会）

今回の地震では、幸いにも家族全員が無事でしたが、住む家と家財を失い、それまでの安穩とした日々の生活が、足元からカサツとさらわれていった気がします。

そんなときに、本当に役立つ貴重な情報を与えてくれたのは、市高でした。市高ニュースを通じて、各種の災害補償や見舞い金について、また、自宅再建のための融資制度などについて、いち早く知ることができました。又、住む家を探している他の先生のことで相談をしたら、早速調べて連絡をもらいました。それから、市高発行の「あすをめざして」も随分と役に立ちました。高専は高校とは異なる校種であり、教育と研究の両面において高専独自の要求が、最近では全面に出てきています。しかし、教育労働者としての生活と権利について、又、学生

・生徒にとつてのより良い教育のための環境整備に関しては、お互いの共通点は非常に多くあり、市高こそ長年にわたつてその共通基盤を積み上げ踏み固めてきたのだということを、この度あらためて痛感しました。

ちなみに、私が新採用で須磨高に配属されて六年間勤めた後、高専に移つてもう十四年が経ちましたが、当時の市高青年部の教育に対する情熱と、一人一人の組合員の要求を大切にしそれを民主的に組織していくという市高の姿勢には、高専に移つた今も価値を見出しています。

〃人のつながり〃を 考えさせられた二カ月余

岡本 弘行 (楠高校分会)

●一月十七日 何が起こつた？

その日、私はなぜか朝早く目が覚めていました。私の勤務する学校は定時制高校なのでこれは珍しいことですが、枕元のデジタル時計は五時三〇分になっていました。もう少し眠ろうと、ウトウトしているところへ、あのドーンという地震がやってきました。

下から突き上げるような衝撃で体が浮きあがり、完全に目が覚めました。最初は何が起こつたのかまったくわからず、どこかで爆発事故でもあったのかと思いましたが、すぐ「ガタガタ」と大きな揺れが始まり、やっと地震だとわかりました。布団をかぶつて丸くなるのが精一杯。二〇秒ほどの揺れだったのでしょいか、隣の部屋に寝ている妻と子どもに声をかけるのですが、返事もなかなか聞こえず、歩くこと

もできません。布団の上から何か固いものが頭をこすっていくのですが、それが私の机だと後になってわかりました。もし目覚めていなければ……と考えると、いまでも身震いします。

揺れがおさまつて、妻と子どもの安全を確認し、時計を見ると数字が消えており、停電したのだと思いました。まず窓を開けて外の様子を見たところ、いつもは頭上にある阪神電鉄の高架が目の前にあるのです。しかも線路の上を何人もの人が歩いていきます。とりあえず外へ出なければ……と思い、子どもを抱きかかえて壊れた階段を下りましたが、いまでも「どのようにして下りたのか」わかりません。玄関のアルミの格子戸がひしゃげて、人が横になつてすり抜けられる隙間があつたのは幸いでした。

●下敷きになった人を夢中で救出

外へ飛び出た靴をさがして子どもたちに履かせ、とにかく近くの小学校まで避難することにしました。阪神電車の高架が崩落したり、家が崩壊している暗やみのなかを歩き、いつもなら五分もかからない距離の学校へたどり着くのに十五分以上かかりました。見渡すかぎりどの家も倒壊し、ビルや電柱もほとんどが傾き、自分の目で見ている現実を受け入れることができず、茫然となつてしまいました。

近くに住む父親のことが心配で、妻と子どもたちを小学校に残して実家に走りました。そこでは父が、崩れた家の下敷きになっている隣家のご夫婦を助けだそうとしているところでした。それから二時間ほど、まるで催眠状態になったかのように、恐怖心も感じず夢中で救出作業にかかりつきりでした。二階の畳を持ち上げ、床板をたたき割り、天井をはがし、その下の家具の隙間にいる人を引っ張り出し、二階の窓から顔を出している人たちに梯子をかけて降ろし、靴を配る。パールの、のこぎり、ジャッキなどが、どこからともなく集まってきます。助け出された人が、またつぎの人を助ける。いま考えれば、余震の恐怖で足がすくんでしまうだろうことを、ほとんどの人がやっていました。

●恐怖の興奮で血走った人たち

午前九時ごろ、少し落ち着いて小学校へ戻り、妻と子どもたちに毛布や衣類を届け、職員室の警報ベルを切ろうとしていたとき、隣の西郷幼稚園の園長がやってきました。そして「岡本先生、手を貸して」といわれ、家族を連れて幼稚園へ避難することになりました。小学校も同じですが、地震の衝撃で窓の鍵がはずれてしまい、どこからともなく避難者が入ってきていっぱいになっていました。

職員室と園長室との鍵を開けて見ると、部屋のなかは、まるでミキサーをかけた後のようにグチャグチャに……。避難してきている人たちもみな、恐怖と興奮で血走っていました。

その日一日は、まるで夢の世界の出来事のように現実感が乏しく、ほとんど有効な手だても打てないままに暮れていきました。

園庭のなかは車でいっぱいになり、あちこちで焚き火が始まっています。寒さのためもありますが、火のそばがこんなに落ち着くものだと思います。と思いませんでした。

●生活のルールをつくらう

その日の夜は、余震の恐怖でほとんど眠れません。この幼稚園は避難所に指定されているわけではなく、どこからも指示が入ってきません。情報もラジオ以外になく、早朝から自転車ですべて走り、様子を見に行きました。

区役所のなかも避難者でいっぱいですし、満足に食糧の供給もおこなわれていません。幼稚園に直接食糧の供給がおこなわれるようになったのは、地震から三日後の二〇日ごろからでした。それまでは園長と蔵本先生（以前の私の同僚）が隣の小学校から分けてもらってきたり、みなによびかけて、食糧を持ち寄ってもらったりでした。幸いなことに、避難者のなかに近くの市場や中華料理店を経営している人たちがおり、倒壊した店から材料を集め、地震の翌日から暖かい食べ物の炊き出しができました。毎日冷たいおにぎりだけでは、お年

寄りや小さい子どもたちはすぐに弱ってしまったと思います。

こうしたなかで、私は「助け合いの姿勢と生活ルールが必要」だと感じ、園長先生、蔵本先生と相談しました。このころ大切だったのは、名簿づくり、トイレなどの水くみ、ゴミ処理、飲料水の確保などです。電気の復旧までは、毎日手書きで二時間ほどかけて名簿をつくり変えました。断水では、水洗トイレは使い物になりません。詰まったトイレとゴミのなかで生活しているのは、気持ちもすさんでしまいます。そのまま放っておけば手のつけようがなくなりますから、みんなの協力です。青年部、婦人部、各部屋の代表者などを決めてもらい、全員での自治を心がけました。

電気の復旧は一月二日でした。午後五時過ぎ、急に電気がついたときは、園内のあちこちから拍手が起きました。テレビで地震の情報を見て、あらためて震災の恐ろしさを実感するとともに、テレビの映像と現実なんか違うような感じがしたのは私だけだろうか？と思っただけです。水道の復旧は遅れて二月一日になってやっとです。これで「水くみの必要がなくなる」と思うと、みんなで万歳してしまいました。

●子どもたちに希望あふれた未来を

あの地震の日より二か月以上たち、あらためてふりかえってみると、いろいろな人たちの支えによって生きてきたと思います。とくに実感したのは、教職員組合の存在でした。私自身、組合の執行委員をしていたこともあって支援を依頼したところ、本当に大勢の方々に助けていただきました。東大阪の中学校、大阪・藤井寺高校、仙台や岡山の各高校の先生方、静岡高教組の仲間たち……。など、本当にいろいろな人との出会いがありました。

民間ボランティアの支援も大きく、今回の地震で「人のつながり」というものをあらためて考えさせられました。

幼稚園の再開は、避難している人の協力もあって二月二四日に実現。

神戸市立高校生の作文

三月一八日の修了式は、二か月ぶりに園児全員が集合することもあり、全員の協力で感動的なものにすることができました。私の子どもも五日ぶりに妻の実家から神戸に帰ってきました。子どもたちが歓声をあげて風船を飛ばしている姿を、父母や居合わせた被災者たちが笑顔で見守る——そこには、地震の前の正常な風景がありました。子どもたちの姿を見て、明るい希望にあふれた未来を願ったのは私一人ではないと思います。

町並みが全然知らない所のよう…

(神戸西高校)

ラジオを聞きながら、高倉台の辺りまで来たとき長田の方面は、オレンジ色に包まれていて黒い雲ができていた。私と兄は、事の重大さに気付いて、黙っていた。私は去年まで長田に住んでいた。生まれ育った町なので、友達や親戚も多く、みんなが、私の知っている人たちが「無事でありますように」と願った。鷹取まで来ると、来る道のりの倒壊家屋とは比べものにならなく、圧倒されるばかりだった。家の原型を保っているものはなく、あちこちで火が出ていて、消防車のサイレンが鳴り響いていた。言葉にできないくらいのもごさで思わず涙がでた。

知っている町並みが全然知らない所ようになっていた。兄が「地獄絵図やな」とポツリと言った。その言葉と見ている光景がマッチしていて、何とも言えない気持ちだった。日が経つにつれて災害の大きさがニュースで報じられて、またショックを受けた。ガスも水道もない日が続いているけど、何か居てもたつてもいられなくて、至る所の

しかし現実には、これからもっときびしくなるでしょう。いままでは「命が助かったことを喜び、毎日を過ごす」ことに懸命でしたが、ここに来て、すべてを失った者、これからのメドが立たない者が多く残り残されていくのです。仮設住宅に入ることができる者もある意味では弱者、また避難所に残る者も弱者なのです。これから私たちに何ができるかを考え、その答えをみつけていきたいと思っています。

ボランティアに電話した。そして、今は、神戸市外大でサブ・リーダーとしてできることをしているつもりだ。

救援物資の中には手紙が入っていて、心のこもった気持ちが、とてもうれしかったり、励まされたりする。こんな手紙や、ボランティア活動をしている人達を見ると、最近人間が冷たくなったと言われているが、そんなことはないなと思った。

阪神大震災の体験を通して

山下 陽介(葺合高校)

一月十七日、五千名以上もの死者を出した大地震はあまりにも突然起こった。

地震が起こった午前五時四十六分頃は、僕はまだ寝ていた。揺れはじめた時に「地震だ。」と思って目を覚ました。すると、だんだん揺れは大きくなり、ズーンという何とも言えない不気味な音をたてながらものすごい揺れに変わった。僕は恐怖で頭をかかえるぐらいしかできなかった。何が何だかわからなかったが、何かとんでもないことが

起きているということだけはわかった。

揺れはすぐにおさまった。後から聞いたところによるとその間たった二十秒だったそうだ。僕の家はマンシヨンの五階ということもあって、かなり揺れたらしく、タンスや食器棚など家中のありとあらゆる家具は全部倒れていた。床は割れた食器で歩くところがないぐらいだった。それでも家族は全員何とか無事だった。

しばらくたって外が明るくなってから僕は外に出てみた。五階の廊下から外を見て、僕はあまりに悲惨な光景にすぐ目を背けてしまった。古い木造の家並みがほとんど全部倒れていたのだ。その向こうに見えていた四階建てのマンシヨンも倒れて粉々になっていた。背筋が凍る思いだった。その光景を見て、急に友人のことが心配になってきた。僕には中学時代からの親友がいた。そのうちの一人は、かなり古い木造建築の家に住んでいた。僕は自分の家が一段落着いたら、その家に行ってみることにした。

隆起した道路につまずきそうになりながら、僕は必死で自転車をこいだ。僕の家近所は木造の一軒家が多く、その八割以上は壊れていた。道が壊れた家でふさがったりして何度も遠回りした。そんな光景を見て不安を募るばかりだった。

ようやく彼の家にたどりついて僕は愕然とした。悪い予感が当たってしまったのだ。その家は一階部分がつぶれて彼が寝ていたであろう一階の部屋はペシャンコになっていた。足がブルブルと震えてきた。近くにいた人が彼の家族が近所の公会堂にいることを教えてくれたので、すぐに飛んで行った。

公会堂に行つて彼が亡くなったことを知った。彼のおじさんもおばさんも顔が腫れあがっていた。彼の両親があまりに哀れでまともに顔を見ることができなかった。彼の両親に彼の遺体が置いてあるところを聞いて、そこへ行った。

彼が死んだと聞かされても全然実感は無かった。まだ半信半疑のまま遺体安置所へ行くと仲間はほとんど全員集まっていた。皆、涙で目をはらしていた。仲間の一人に言われて僕も彼の顔を見た。顔までか

ぶせてあった毛布をめくる手が震えて止まらなかった。毛布をめくると青白くなった彼の顔があった。打撲で腫れあがっていたが、寝ているような顔だった。思わず手を合わせた。涙があふれて止まらなかった。

地震が起きてから三日間、僕の家族は近所の小学校に避難することにした。電気も水道もガスも全てだめになっていた。食料の配給も最初は一人当たり食パン一枚だった。

その後、父の実家の佐賀に行くことになり、途中、家族でレストランに入った。久しぶりのごちそうを前に、自然に手を合わせた。本当においしかった。

今回の地震で僕は本当に多くのものを失ってしまったが、学び得ることも多かったと思う。人の命の尊さ、家族のありがたみ、食料や水があるということの幸福、どれをとってもこのような大災害がなければ気付かなかったことばかりだ。僕の心に刻まれたショックは大きい。地震で学んだことを忘れずに力強く生きていきたい。そして僕達の子孫にこの大地震のことを伝えていきたい。

大切なもの：助けあい、水、電気、家族

羽鳥 知春（赤塚山高校）

その時のことを思い出ただけで恐ろしくなる。地球がおかしくなっただと思った。私の上に何かが落ちてきた。タンスだった。弟が隣に寝ていたのだいじょうぶかと心配だったけど、本人はというと何がおこったかわからない様子だった。さいわい家族全員けが一つしないうでマンシヨンも無事だった。ペランダの戸を開けると、霧みたいに向かいの住宅からの砂ぼこりで外が見えなかった。だんだん見えてくると向かいの住宅の一階がなくなって二階が下に落ちていて真ん中で半分に分かれていた。座り込んでしまつて茫然とした。私のマンシヨンもど

うなるか心配だったので外に出た。その日は、マンションの人たちと一階にいた。マンションの小さな子供たちはその時の状況をわかっていないのか、いるのか知らないがみんなといっしょにいられて楽しそうに何だか少しうらやましかった。その日はパンとおかしなどを食べた。

夜になると電気がつかないので真っ暗だったので隣の家にみんなで十人かたまつて寝た。うとうとするけどぜんぜん眠れなかった。夜がすごく長く感じた。

次の日から家の中を片付けたり、元の生活を取り戻そうとしていった。また二、三日たつと、救済物資をもらったり水くみに行ったりした。

私は、この地震を体験して大事にしないといけない大切な物がたくさんあることが改めてわかった。それは、人間関係(助けあい)、水、電気、家族などです。

物の大切さはわかったけどやはり地震からだいぶたつた今でも、夜になるとこわくてぐっすり寝れないし、水、ガスがまだ出ないので早く元の生活に戻りたい。

私はもうぜったいあのおそろしい地震を体験したくありません。

悪夢のような現実の繰り返し

(神港高校)

ものすごい地震だった。

しかし、あれは夢だったのかもしれない、と思って納得する。地震(それも縦ゆれの大きなやつ)が、神戸にくるはずがないもの。そして、目が覚めて知る。悪夢のような現実に戻ってくる。

その繰り返し。

だから私はあの日から何も変わっていない。まだ何も分かっていない。分かるうとしない。ふと、新聞なんかで、「後ろを振り返ってば

かりはいられない。一から出直したという気持ちで前をロいて生きていくのみ。」なんて書いてあって、私は、自分が前を向いて歩いているんだろうかと不安になる。「前を向いて歩く」、そんな人になるにはどうすればいいのか。考えて、とほくに暮れてしまう。

今の私は、完全に止まっている。何もしたくない。できれば、ずっと寝ていたいと思う。もう一度、あの日に戻りたいとも思わない。だって、戻れないことも知ってしまったから。

今の私の、こういう状態を人はかわいそうと呼ぶのかもしれないけれど、私には分からない。当人なんだから当たり前なのかもしれないけれど。私は、私をかわいそうと思う人に、不信任を覚えてしまう。ふてぶてしい野郎だからだ。今は、人の手を借りてないと生きていけないというのに。

体育館での生活は、旅行気分だ。見知らぬ人がいっぱいいる。知っている遠い人も、隣で寝ている。不思議な生活だと思う。そういえば、あのおふろ屋さんで寝起きしてたんだ。今日は、あのおふろ屋さんにおふろに入りに行こう。かつては、私の家だった所に。

我ながらなんてヤツだと思う。でも、私の家はまだまだたおれずに残っているし、中にも入れるから、ちよつとした旅に出ているみたいにして生活している。

私が、旅行に飽きて、家に帰りたいと思うようになったとき、あの地震をうらむだろうか。そうしたら、前を向いて歩けるようにがんばる人になるだろうか。

その時が突然来たら怖いと思う。

玄関までが、とても遠い距離…

前田 麻紀(兵庫商業高校)

誰もが、まさかこんなことになるなんて思いもしなかっただろう。太陽も昇らない朝早くに、その悲劇は突然やって来た。私の家は二階

建てのアパートの中の一つ。二十年も昔に造られたらしく、やはり震度七の地震には耐えられなかった。私の住む部屋は一階の真ん中なので、窓の数が少ない。地震で、家の中がぐちゃぐちゃになり、寝ていた私はタンスや本棚の下敷きになってしまっていた。

揺れが治まってきたら、私は落ちてきた物をかけ布団ごと押しのけて外に出ようと試みた。しかし真つ暗な中、足の踏み場もない部屋から玄関に行くのは、とても遠い距離であった。数少ない窓は、家がゆがんでいたので開かない。玄関に行けたのはいいが、どうやら、家の向かいのアパートが崩れてきて玄関をふさいでいるらしい。どうしようか迷っている時、外から人の声がしたので、父が呼びかけた。外にいた人は、お隣のおじさんだった。「だいじょぶか?」という大きな声がし、炊事場の上の小さな窓を破ってくれた。ガラスのなくなった窓から冷たい風が入ってきた。窓の近くにいた父が、「外はさぶいから、服着とけよー!」と叫んだ。暗くて見えないので、ちらばった服から適当につかんで体にひっつけた私は、体を小さくしながら窓から無事に外に出ることが出来た。家のすぐ横にある広い道に、近所の人達がたくさん集まっていた。私達もそこに行き、まだ脱出しようとしている人達を見守った。すぐには気が付かなかったが、あちこちで火事があったり、消防車とかの車のサイレンがたくさんなっていた。今まで過ごしてきた町は、一瞬にして廃墟と化してしまっていた。

しばらくは何もできず、途方に暮れていた時、家の下に住む一家の中のお母さんが生き埋めになっていると聞いた。家が完璧にベシヤンコになっていたが、ほかの家族は無事だった。近所のお父さん達がガレキをのけたりして、さがしてみたが、なかなか見つからない。私の父と弟もそれに参加していた。太陽はすでに昇っていた。お昼ごろ、家にもう一度戻って、お金などの貴重品を取って、近くの高校に避難した。しかし、かなり下の方にある火事が、風にのってズンズンと山の方に向かってきたので、また移動するハメになってしまった。

結局、下の方にある中学校に避難することになった。その学校のすぐ近くも火事があったので、学校の方にこないか心配だった。

あつという間に夜になり、私は不安なまま寝ることになった。私の家族は、生徒達の学ぶ場である教室に入るようになった。近所の人といっしょになり、合計二十五人がその教室の中で生活するのだ。昼間はいいが、夜は人数のせいで寝るスペースが小さいので、この日は、私と父の二人は車で寝ることになった。私と父は、座りながら寝るのになかなか慣れず、寝てしまうまでずっとラジオを聞いていた。ラジオは、ほとんどのチャンネルが地震の話ばかりだった。安否のお知らせや余震の回数、道路などの交通状態などやっていた。かなり時間が過ぎて、ようやくとうとうしかけた時、うつろな目で車の前を見ると、空が赤くなっていた。まだ火事はおさまっていないのだ。私はさらに不安になったが、眠気がどんどん出てきたので、しばらくして眠ってしまった。

次の日、消防車のサイレンで目を覚ました私と父は、改めて回りを見に行った。きのうまで火事が町をおおい尽くしていたが、今ではほとんど火も消えていた。火が消えるのはいいが、町のほとんどが焼け野原にかわりはてていた。「こんな火の海の中、たくさんの人が死んでいったんだなあ。」と私は思った。それから何日も過ぎて、一月が終わった。避難所での生活は、毎日同じ行動の繰り返しだ。そろそろこの中学校も出なくてはいけない。仮設住宅に申し込んだが、当たる確率はほとんどないと言ってもいい。これからは住む家をさがして、新しい人生を歩むことになるが、何ごとにもくじけずに、がんばって普通の生活が出来るようにしたい。そして、今回の大地震で経験した事を、これからの人生に役だてるようにしたいと思う。

神戸市立兵庫商業高等学校 震災のまとめ 〈兵商分会〉

1月17日(火)

AM 5:45地震発生。臨時休校。破損状況確認
(三号館、格技室、講堂、図書館、本館ひび、
グラウンドの亀裂など)。避難所となり、会議室
・計算実務室・統計実務室に約七〇名の方が避難される。

18日(水)～21日(土)

臨時休校。この間、手分けして各避難所をまわり、生徒の安否確認に奔走する。全員の安否確認ができたのは二一日だった。残念ながら二年五組大塚節子さんの死亡を確認する。連絡会を毎朝することになる。避難所体制としては生徒指導室を物資庫として、役所からの派遣者一名と管理職・当直の先生方でお世話をする。

22日(日)

地震後、始めての雨がふる。出勤可能な先生方は出勤し、電話番号や避難所の雑務をする。

23日(月)～28日(土)

通学可能生徒のみ登校(8:30)。二時間ほどの被災調査・HR・自習・カンパ活動・救援物資の受付など。二四日は全校生徒による避難訓練実施。三年生は教室で2クラスずつ、養護教諭による救急法実習(包帯実習・人工呼吸法など)をうける。二年スキー訓練は中止。登校率五〇%。二五、二六、二七日は登校不可能生徒へ市街地七中(雲雀丘・湊川・吉田・兵庫・荻藻・西代・太田)において、生徒の被災調査、諸連絡、激励文を渡す。

29日(日)

一週間遅れで全国商業高等学校協会主催の簿記検定を実施。

30日(月)

開始を十時に変更し、STなどの体裁を整え、二時間のプリント学習、授業をする。

31日(火)

午後、職員会議。各部署よりこれまでの報告およびこれからの方針について審議する。

奈良県立桜井商業高等学校より被災生徒に援助物資が送られてきた。

2月1日(水)

三年生は最終登校、学年集会。卒業作文として全員に震災についての作文を課す。登校できないものは、担任の訪問・郵送などの手段をつくし、卒業考査の代替とする。

楠高校に教室(三号館)を貸す。

2日(木)

神港高校に体育館を貸す。
三年生・進路指導部の打ち合わせ会。三年生の各進路先の状況確認と進路取り消し者への対応・これからの進路先の確保など。

3日(金)

職員会議。これまでの報告およびこれからの方針について審議する。

4日(土)・8日(火)

摩耶兵庫高校、神戸工業高校の教室を借り、生徒に諸連絡・学習プリントなどを渡す。(両校にきた生徒一六一名)

5日(日)

一週間遅れで全国商業高等学校協会主催の情報処理検定を実施。

6日(月)

神戸工業高校に教室を貸す。
職員会議。これまでの報告およびこれからの方針について審議する。

7日(火)

避難者の数がなくなり、会議室のみとなる。
神戸電鉄長田まで復旧。登校できる生徒は十時

② 各職場で起こったこと、忘れないこと

8日(水)	9日(木)～10日(金)	12日(日)	13日(月)～	15日(水)	17日(金)	21日(火)	24日(金)	25日(土)	3月1日(水)	4日(土)～8日(水)	14日(火)	16日(木)	20日(月)
までに登校するよう指示。授業再開に向けて動き出す。登校率八二％。	御影工業高校へ教室を貸す。 9・30分登校を試行。	一週間遅れで全国商業高等学校協会主催の商業経済検定を実施。	授業再開(9・30始業 40分 6限)。登校率93％。	部活動再開。 朝の連絡会を終了する。	地震よりはや1ヶ月が過ぎた。正午、犠牲者への黙とう。	三年卒業認定会議、職員会議。全員無事認定され、卒業式などについて報告。	卒業式予行、準備。この日地震後始めて三年生が全員顔を揃える。	地震の傷あとの残る講堂で卒業式がおこなわれる。	職員会議。二・一年生の学年末考査について審議する。	本校は避難所としては役目を終え、残りの避難者の方たちは北区役所の会議室に移動していた。だくことになる。	二・一年生学年末考査。	進級認定会議、職員会議。 入学者選抜学力検査。	合格発表。終業式。

☆被災の状況

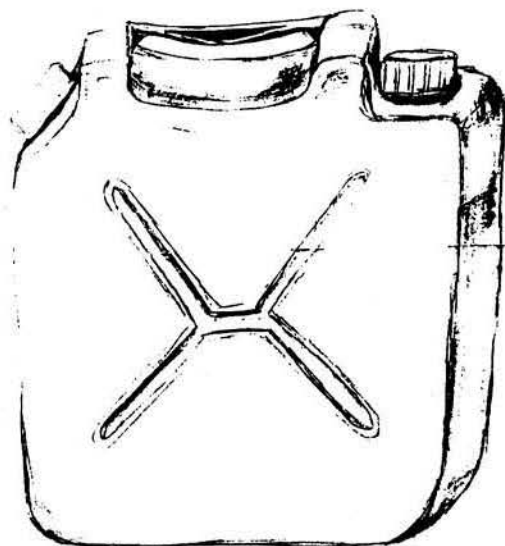
〈生徒〉

	1年	2年	3年	計
在 籍	320	309	303	932
死 亡	0	1	0	1
家屋全壊	31	25	24	80
家屋半壊	36	54	48	138
家屋焼失	4	5	4	13
避 難	66	78	82	226

〈教員〉

全壊	2名
半壊	9名
家族死亡	1名

スケッチ ● 神戸市立須磨高校2年



☆震災1ヶ月後、保健室が健康調査をする。その調査報告より

阪神大震災後の健康調査

NO. 1

保健室

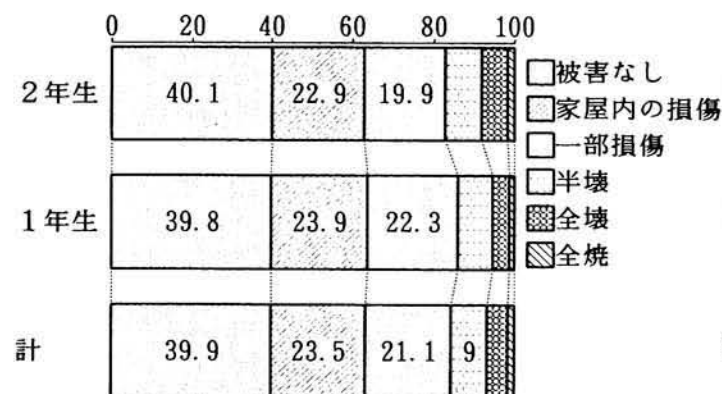
阪神大震災大変でした。まだまだこの大変さは続きそうですが・・・・・・

はや1ヶ月がたちました。皆さんの健康状態が気になります。現在の状態をありのままに記入してください。

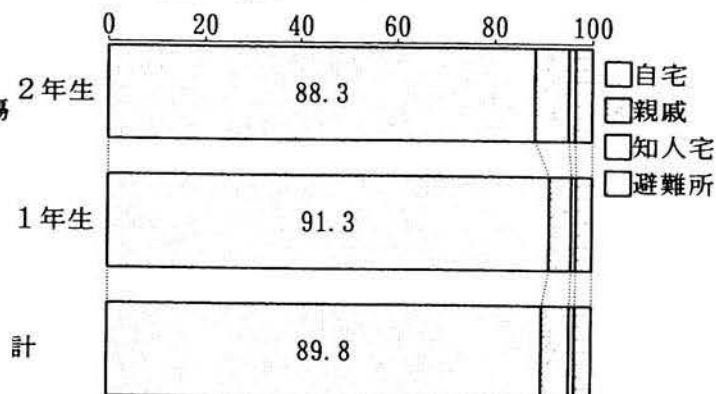
実施日 平成7年2月22、23日

	男	女	計
2年生	65	226	291
1年生	34	243	309

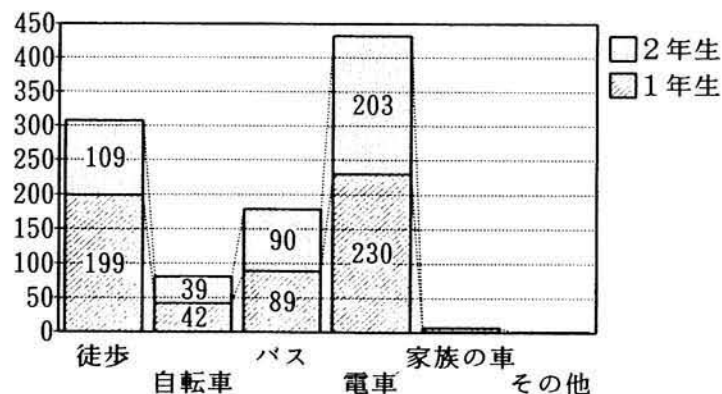
1. あなたの家の被害は、どうでしたか？



2. 現在の住まいは？



3. あなたの通学方法は？（複数可）



4. あなたは震災でケガをしましたか？

(小さなケガも含む)

	しない	した
2年生	263	28
1年生	275	34
計	538	62

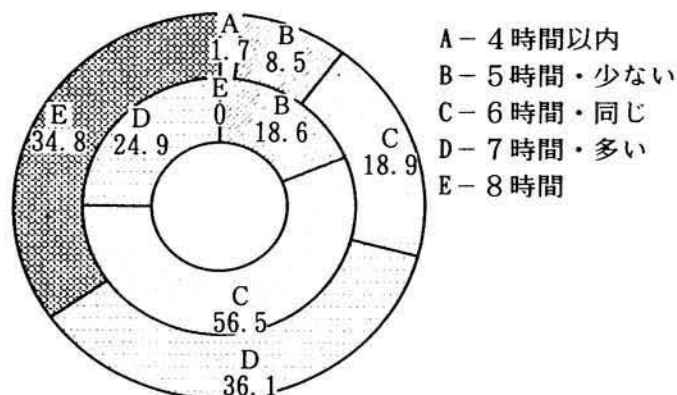
打撲18、切傷(ガラス)26

すり傷6、骨折1、火傷1

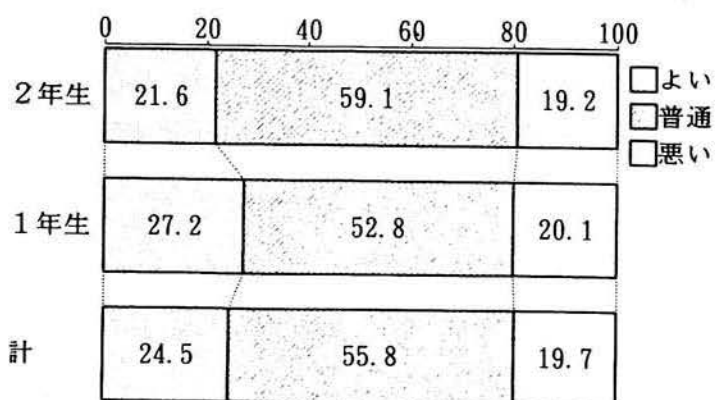
刺傷(くぎ)1、捻挫1

5. あなたの現在の睡眠時間はどれくらいですか？

(内円=震災前と比べて)



6. 寝付きは良いですか？

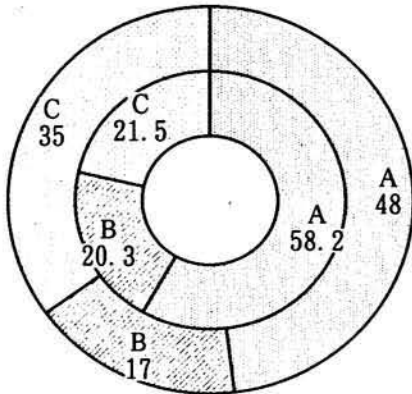


(悪い理由) 怖い(暗闇・余震)18、もともと不眠5、悩み・考え事4、よくわからないが夜中に目がさめる4、僅かなゆれで目がさめる3、知人宅なので気をつかう3、体調不良3

② 各職場で起こったこと、忘れないこと

NO. 2

7. ぐっすり眠れますか？（内円＝震災前と比べて）

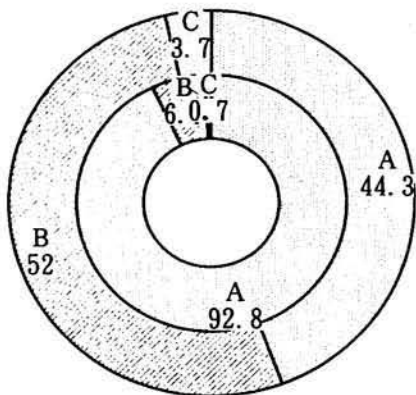


A－はい・同じ
B－いいえ・不眠
C－わからない

8. 震災後は暗闇が気になりますか？

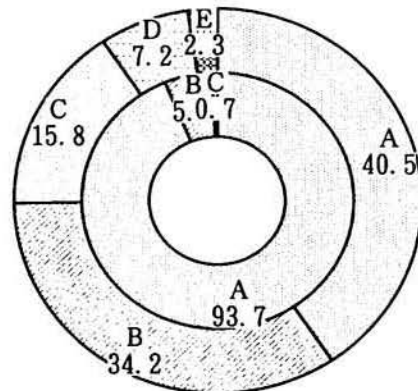
	0	20	40	60	80	100	
2年生	23.1		39		37.9		□大いに気になる ■普通 □別に感じない
1年生	15.9		44		40.1		
計	19.4		41.6		39.1		

9. 食欲はありますか？
（内円＝震災前と比べて）



A－ある・変化なし
B－普通・変化あり
C－なし・無回答

10. 便通はありますか？
（内円＝震災前と比べて）



A－毎日ある・変化なし
B－2日に1回・変化あり
C－3日に1回・無回答
D－4日以上
E－わからない

11. 現在、不安・悩み・心配事があれば書いてください。

①余震が心配	21
②水・ガス・電気がこない	19
③健康上の不安（不眠・便秘・インフルエンザ・家族の病気）	12
④学校生活への不安（部活・登校時間・勉強の遅れ）	8
⑤経済的悩み（交通費・家計費）	5
⑥家が欲しい・自分の家がどうなるのか心配	4
⑦精神的な疲れ	2
⑧親戚・友人の家が心配	3
⑨進路への不安	2
⑩カバンが大きくて、バスの乗り降りが大変	1
⑪食事	1
⑫避難所ではよく眠れない	1

神戸市立赤塚山高等学校の 地震対応

〈赤塚山高校分会〉

1月17日(火) 5時46分 地震発生

・校長より教頭・白井さんに電話連絡

8:00ごろ学校を開ける。(避難者数名が来ている)

教員が順次登校

・敬愛館を開放し二階に収容

8:40 東灘区役所より、避難場所指定の連絡(女子職員)

職員)

・学校の状況確認して回る。

・停電 断水 ガス停止 電話不通(9:00)

公衆電話のみ)

・校舎外壁異常なし、事務室・職員室等内部は

散乱

・グランド亀裂・液状化現象 水道管破裂 灯

籠倒れる

・プール亀裂 前庭道路亀裂 等々

10:00 避難者増えて、練誠館開放

・その後、敬愛館一階・体育館開放(総数約三

〇〇名)

各教職員に電話連絡(但し、公衆電話)

13:00 宿直を決めて、順次帰宅

16:頃 電気通じる

・避難者の避難場所指定に追われるのみ。

・食事、水等の配給なく困難を極める。

・早朝より、東灘区の浜側一帯が、液化ガス漏

れで爆発の恐れがあり避難勧告発令のため、
多数登校(約六〇〇名)

10:00 食事、飲料水を手配する旨の連絡

・木村佳代さん(二一二) 原田章子さん(三
一三)が死亡された旨の連絡

13:00頃 おむすび、リング 飲料水の支給在り

・登校の先生で、おむすび1ヶ、リング1/4
支給

夜 体育館にストーブ設置

23:00頃 姫路神戸製鋼病院長より水カイク、食料差し
入れ

夜中0時頃 毛布七五枚支給 敬愛館1Fと体育館に支給

夜中2時頃 プールの水を池にポンプで汲み上げる操作

19日(木) 7:00 前日の残った水を配給

8:30 食料支給(おむすび・バナナ)

10:00 友生養護学校に車椅子2台依頼し借り受け

11:00 パン、ミルク 水等支給 (以後食料は不足
せず。水は貴重品)

・伊藤園始め各所よりの差し入れ

15:00 市役所・委員会より被害状況調査に来校(六
名)

・消防局より救急用ヘリの発着場所としてグラ
ンド使用の申し出あり

23:00 九州の団体よりトラック3台分の生活用品の
差し入れ有り。

3:00 布団・毛布等はすぐ体育館に支給

・お年寄りの介護と病人の対応に頭を痛める状
況が続く

・救急ヘリ発着

・自衛隊の救急隊員に病気のお年寄りの病院対

20日(金) 6:30

・自衛隊の救急隊員に病気のお年寄りの病院対

② 各職場で起こったこと、忘れないこと

22日(日)	5:00	・ 降雨予想で土砂崩れの恐れのある住吉山手一
21日(土)	10:00	・ 工藤宏和君(一一三)の死亡された連絡を受ける。 ・ 避難者(三五〇名程度) 避難者名簿の作成にかかる。 ・ 校務運営委員会 ・ 職員会議(状況報告と対応 今後の取り組みについて) ・ 一月二七日(金)の生徒集合とその連絡(四二名出勤) ・ 教職員の勤務についての調査(用紙に記入依頼) ・ 役割分担表作成 ・ 避難者対応のマニュアルを白板に記入 ・ AM神戸に生徒招集の放送依頼 ・ 名古屋市立東市民病院の救護班九名が学校対応。内科医師。看護婦二名が学校に宿泊。 ・ 避難宿所に少し落ち着きと明るさが見られるようになる。(避難者数 約三〇〇名)
24日(火)	24日(火)	・ 簡易トイレ組み立て ・ プロパンとコンロ届く ・ 始めて暖かいお茶とカップメン支給 ・ 森工業所よりポンプ借り受ける ・ 生活用水入る ・ トイレの消毒開始 ・ 避難者数約二三〇名程度 ・ サンテレビに生徒招集の報道依頼 ・ 臨時校運 ・ 西別館二階の整備 ・ 看護士二名配置 ・ 避難者数約二〇〇名 ・ 対策本部より全国から送られてきた食料が、底をついてきた旨の文書 ・ 校運(今後の対応 明日の生徒集合の対応の
23日(月)	23日(月)	・ 伝言板搬入 ・ NHKテレビ二台設置 ・ 電話四台 FAX1台設置 ・ 簡易トイレ六台設置 ・ 二七日の生徒招集に関して、港島中学校に港島地区の生徒集合の場所提供の依頼。(山田美先生と保護者で対応) ・ 避難者数約二三〇名程度 ・ 簡易トイレ組み立て ・ プロパンとコンロ届く ・ 始めて暖かいお茶とカップメン支給 ・ 森工業所よりポンプ借り受ける ・ 生活用水入る ・ トイレの消毒開始 ・ 避難者数約二三〇名程度 ・ サンテレビに生徒招集の報道依頼 ・ 臨時校運 ・ 西別館二階の整備 ・ 看護士二名配置 ・ 避難者数約二〇〇名 ・ 対策本部より全国から送られてきた食料が、底をついてきた旨の文書 ・ 校運(今後の対応 明日の生徒集合の対応の
10:00	10:00	・ 応を依頼 ・ 二一日十時校運 十三時職員会議決定し連絡 ・ 出勤の校務運営委員で校舎再点検と連絡 ・ 食料・牛乳等は十分に行き届くが、水不足は続く ・ 生活用水の依頼を繰り返す。 ・ 老人の介護と病人の対応に頭を痛める状態が続く。 ・ 避難されている方への対応の手順が一応固まった感じ。

検討)

・昨日届いたまきと釜を使い「おでんもどき」を作り配る(神戸大学・鳥取大学のボランティア)

・借り入れたポンプで屋上への汲み上げを試みるが失敗

・避難者数約二〇〇名

・救護班交替(名古屋市舟田医院)

・生徒登校(10:00)

一年 一八四/三三二(五七・一%)

二年 一八七/三二五(五九・三%)

三年 一九四/三二七(六一・二%)

計 五六五/九五五(五九・一%)

その他、港島地区の生徒は、港島中学校に集合し、指導(三六/五六)

・校内の水道管の修理(森口工業所)

・「ニュー兵庫」の取材

・神戸大、鳥取大学のボランティア(炊き出し)

・本日より昭和大学医学部医療班が滞在し医療活動

・被災生徒に学校の学習場所提供の連絡文書発送

・大阪のサンキューKKによるキムチ鍋とぜん

ざいの炊き出し

・し尿とゴミの回収

・自転車1台支給される

・校運(10:00)

・乳幼児、老人を対象にお風呂。救護班を中心に神戸大住吉寮で対応。続いて一般の避難住民にも対応の予定。

31日(火)

・食事の配給の手伝いを避難住民にも依頼(仕分け等は従来どおり職員で)

・魚崎消防団より保温ポット(ご飯用)借り受け

・春節祭で本校に避難する中国の方を中心に水ぎょうざ炊き出し

・避難住民数調査 二一六名

・被災生徒の教科書等の希望調査

・学校保存の試薬等の処理申請(市教委管理課へ)

・魚崎消防団よりマットレス六四枚支給を受ける(体育館、敬愛館一階へ)



震災の中で

〈盲学校分会〉

私の勤務する神戸市立盲学校は、ＪＲ神戸駅浜側の埋立地にあります。震災で地盤が陥没し、校舎の被害は少なかったものの、ハーバーランドの名で親しまれている周辺のファッションゾーンも見erkかげもないようになりました。長年親しんだ風景が一変した喪失感言葉に尽くせません。三か月たった今でも瓦礫の片隅にひっそり置かれた真新しい花束に、足が止まります。そんな中で震災の経験を書いたり伝えたりするのは、まだとても難しいと感じています。

私が出勤できたのは地震後五日目の一月二日です。この時点でもだ安否確認のできていない生徒がいました。学校は約四〇〇名の被災者を受け入れ、職員室にも救護物資が積まれていました。机に置いていた自分のカーヒーカップが無事だったのを、ひどく不思議な気持ちで手にしたのを思い出します。互いを気遣いながらも、学校はぎこちない緊張感に包まれていました。職員数六八名のうち、初日の出勤は九名、この日ようやく半数をこえる四二名が出勤し、地震後初めての職員会議が行われました。

私自身が本格的に勤務できるようになるまで、この日からもう一週間かかることになります。一七日、私の自宅は、激しい衝撃とともに崩れた壁とガスのにおいに包まれました。明け方の暗がりの中でようやく近くの中学校へ避難すると、すでにあちこちから煙が上がっています。近所の人の救出を手伝い、体育館にとりあえずの居場所を作つて、私は公衆電話を探しました。実家と学校へ連絡しなければならぬ。しかしつながりません。横で妻が「生きているんだから、いつか必ず連絡がとれるよ」と言うのを聞いて、そうだなと少し肩の力が抜けました。その後、近所にいる生徒の家を訪ねました。Ｙさんの家は無事でした。〇君のマンションは、Ｌ字型の南北の部分が倒壊し、ま

だ中に何人も閉じこめられているといいます。彼の家は無事だった東西の棟にあったので、会えなかったけれどほっとして避難所にもどりました。そこでＹさんのお父さんに会いました。心配して見に来てくれたそうです。改めて互いの家族の無事を喜び、また会いましょうと別れました。

その後私たちの地域はガスタンク爆発の恐れがあるとのことで避難勧告が出され、さらに北にある小学校へ移動しました。Ｙさんと〇君は、車の中で何泊かしたのち、それぞれ親戚の家へ移られました。避難先に担任の先生が毎日のように訪問し、〇君はこの春卒業、市内の施設に入所が決まりました。Ｙさんも今は自宅にもどっています。まだ車中にいた彼らを訪ねたとき、二人の穏やかで落ち着いた様子に、私自身が随分励まされました。家屋はなくなっても、家族は支え合っているのだと、その時強く思いました。

壊れた壁の下から自転車を取り出して行動半径が広がりました。担任をしていたＳ君の安否が確認できていません。彼のマンションまで行くと、「安全な所に避難しています」と言う貼り紙。とりあえずほつとしたものの避難先がわかりません。近くの公園や学校を訪ね歩きましたが、結局見つけれませんでした。その後、赤穂へ避難していることがわかり再開できたときは、本当に嬉しかったです。お母さんが震災で失業し、まだ神戸に戻ることができません。休学で新学期を迎えましたが、先日体育会には元気な顔を見せてくれました。母と子、二人の生活は苦勞も多いと思いますが、一日も早く神戸で暮らせる日が来るよう願っています。

お母さんが再婚し、新しいお父さんと暮らすようになった生徒がいます。彼女が、「地震の時、お父さんが重かった。」と言っていました。その時とつさに彼女におおいかぶさって守ってくれたのだそうです。

盲学校には、一人暮らしの年配の生徒さんもいます。私の身近に、震災で家族が崩壊した人たちもいます。こうした人たちに、震災の困難はより大きいのしかかっているようです。Ｋさんはやっと買い求め

たマンションが被害を受けました。居住は可能なものの、「もう一人では恐くて住めない」と言います。資産価値がなくなり、売ることもできないマンションですが、これからいくら修理費がかかるかわかりません。障害年金だけで暮らす彼女が四〇才を過ぎたこれからどうすればいいのか。彼女は一人で決めなければならぬし、私たちは力になれないのかもしれない。

避難所から自転車で通勤するようになってからの毎日、たくさんのことがありました。数多くのかけがえのない出会いに、感謝の気持ちを伝え、それからのひとつひとつを記憶にとどめたいと思います。それに、目の前で親しい人を亡くしながら死を実感できなかった不安定な気持ちや、ささいなきっかけで涙がとまらなくなるような張りつめた日々、その時々自分のありようもいつか別の機会にきちんと書きとめておこうと思っています。(一九九五年五月一〇日)

(全障研「みんなのねがい」より)

渡辺 譲

被災地におけるレクリエーション

〈神戸商業高校分会〉

地震の日から一週間がたち余震も落ちつきを見せ始めた。それと共に生きるために力を注いできた避難者は、安らぎと安心を求め、ふれあいを求めるようになった。自分たちだけ良ければといった状態から、少しずつ周りの人々にも気遣いが出てきた。特に子供たちの表情にも、少しずつ明るさが戻り、グラウンドを駆け回ったり、二、三人の仲間と遊ぶようにまでなった。

この期をとらえて、本校では、「ドッジボール大会」を企画し、試みることにした。

近隣の小学校(避難所)にも声をかけて、約三〇人ほどの子供(下

は幼稚園児から小学六年生くらいまで)を集めた。グラウンドをフェンスで仕切ってチビッコ広場と称し、教職員と避難者、そして子供たちとのふれあいが始まった。

久しぶりに学校に子供たちの歓喜の声がこだました。終わってから、体育館の倉庫に眠っていたメダルを一つ一つ手渡し、楽しいひとときが過ぎていった。

次の日(一月二五日(水))から、レクリエーションの担当は正式に私になり、(資料三、表二)のようなプログラムで活動を行った。毎日、計画的にと言いたいが、実際は行き当たりばったりであったが、長いキャンプリージャーとしての経験で、ネタを欠くことはなかった。

特に、一月二七日(金)のボーリングは、避難生活で大量に出たペットボトルを、ボーリングのピンにみたてて行い、子供たちにも、大いに好評であった。

この様子は、一月二四日(火)のドッジボールと共にテレビを通じて報道され、暗い雰囲気の中の明るい話題として取り上げられた。

一月三〇日(月)に行った飯ごう炊さんは、子供から大人まで、かなり幅の広い年齢層の参加が見られ、カレーライスもあつと言う間に売り切れてしまった。終わってから、子供らのお母さんが、まだ水も出ていない不自由な中「いつも子供がお世話になってます。」と言って丁寧に鍋を洗ってくださったのは嬉しかった。

その後、このレクリエーションは、二月の連休前(二月一〇日(金))まで、毎日実施し一六回を数えた。しかし、小学校も再開し、私たちが小学校に代って果たしてきた機能を元に戻すために、二月一七日(金)からは週一回、金曜日に行うことにした。

このレクリエーションと並行して、避難者への健康づくりの一貫として、一月二五日(水)からラジオ体操も朝の連絡会の中で始めている。これは、今日までほとんど毎朝、行われているが、四月からの新学期に生徒会役員にバトンタッチされた。

渡辺 眞一

② 各職場で起こったこと、忘れないこと

(資料3・表2)

神戸市立神戸商業高等学校で行ったレクリエーションプログラム

月	日	曜日	本校で行ったプログラム	場 所	感 想	記 事
1	24	火	ドッチボール	グラウンド	レクリエーション 初日	久し振りに子供の笑顔 MBSの取材(テレビ放映)
	25	水	ゲーム大会	グラウンド	鬼ごっこ中心	
	26	木	キックベースボール	グラウンド	幼稚園児には難しい	
	27	金	ボーリング	グラウンド	空いたペットボトルに少し砂 を入れてピンにして MBSの取材(テレビ放映)	
	28	土	サッカー	グラウンド	幼稚園児には難しい	
	30	月	飯合炊さん (女の先生方の協力)	グラウンド	調理室で下準備 大人から子供まで参加	
	31	火	ポートボール	グラウンド		
	2	水	ホッケー	グラウンド	ホウキをステックにしてボー ルを打つ	
	3	金	豆まき・折り紙	グラウンド	MBSの取材(テレビ放映) 折り紙で鬼を作る	
	4	土	綿菓子(失敗)	特別教室	テレビを見た人が子供のため 機械を送ってくれたが、残念 なことに故障していた	
2	6	月	マット遊び	グラウンド	体育のマットを使って	
	7	火	ポートボール	グラウンド	生徒の協力参加多数あり	
	8	水	バスケットボール	グラウンド	ゴールは美術の先生が自作	
	9	木	綿菓子・バスケットボール	特別教室	綿菓子の機械は、おもちゃ屋 で購入して実施	
	10	金	バスケットボール	グラウンド		

☆グラウンドはちびっこ広場で行う。

☆いろんな面で経費がかかったが、昨年度の文化祭での売上を使っても良いということ
だったので、それに対応した。

☆参加者の子供の数は正確には把握していないが、5人～40人くらい参加していた。

No. 9 1995. 2. 10

生徒への激励をニュースで

〈楠高校分會〉

がんばる 楠高生ニュース

再開 2 日目！！

再啓 2 日目
 橋高校が再開されて二日目。今日も多くの仲間がそれぞれの会
 組に入った。また、ボランティア活動を積極的にした仲間もいる。
 橋高校 71 名 兵庫商高 54 名 神戸工業 29 名 須磨
 今日もそれぞれの会場で頑張ろう。

仕事が無くなった人に

今回の地震によって多くの会社が倒れ、仕事ができなくなった
と思う。

- 省は、2月1日に以下の特別措置を講じると発表した。
1. 便乗的に解雇することがないよう事業所に指導する。
 2. 事業所の休業または廃止により、一時的に雇職や休業に支給する。
 3. 事業主が、労働者を休業させる場合は、事業主に対して
 4. 就職内定の取消しを防止するため、新卒者にも雇用調整
- を打ち出した。しかし、これらの特別措置は事業所が完全に潰れていないこと
- バイトで働いている人にもこの特別措置が、まのところあたら

未曾有の経験 — 作文の中から —

がんばる 楠高生 ニュース No.10 1995.2.13

★ がんばる楠校生 ★

2月1日から4校に別れて授業が再開され、はや9日が過ぎました。各校で楽しく真剣な授業が行われています。その様子をご紹介します。

兵庫商業高校

神戸電鉄鈴蘭台駅から坂道を歩いて5分、校門前の坂道が最後の難関。校舎を見たら何ともないように見えたけれど、よく見るとヒビ割れがわかる。奥の校舎まで歩いていくと、二階の窓から楠の先生が顔を出して迎えてくれる。1・2年と、3・4年の教室に別れて課題のプリントをもらい授業を受ける。わからないところがあれば、ていねいに先生がきて教えてくれる。1・2年が一緒なので学年を超えた友達とも一緒に勉強でき楽しく頑張っている。(1年男子)

神戸工業高校

地下鉄名谷駅から歩いて5分、交通の便がいいので、橋校に行くより近くてはやく行ける。1枚ずつ課題プリントをもらってしばらく自分でやり、その後先生がわかりやすく説明してくれる。休憩をはさみ1時間半ほど授業を受ける。「がんばる 橋校生 ニュース」を先生が解説しながら読んでもくれる。全国各地からボランティアの人が来て頑張っていることを知って、本当にありがたうれしく思う。(1年女子)

須磨高校

会社から30分歩いて通っている。道沿いには倒れた家や瓦礫などがまだ残っていて地震のすごさがわかる。須磨高校の西門から入って、運動場を横切り校舎に入る。生徒はいつも4〜5人で先生とマンツーマンで授業が受けられる。先生との会話ははずみ、普通の授業では味わえない楽しい授業を受けている。4年生としてちょっとだけさびしかったのは、やっぱり梅でうちょうと勉強したかったこと。(4年男子)

精高校

仕事が終わってから自転車で行っている。途中の道は倒れた家などで道がふさがっていて迂回しなければならない所もある。自転車がすぐパンクしてしまい大変である。夜になると街灯がなく暗い所もあり非常に危険である。学校には多くの避難している方がいる。会議室に入って、課題のプリントをもらい各自で勉強し、後から解答をもらって答えあわせをする。早い時間帯に行ったときはトイレの水くみや掃除ごみ拾いなどのボランティアをしている。親しい友達と話をしたりして楽しい毎日である。(2年男子)

がんばる 高校生 ニュース No.5 1995.2.6

多くの仲間の生活がかわった

[illegible]

アンケート結果 (抜粋)

- アンケート結果(抜粋)
- ◎ あなたの家は今回の地震でどうなりましたか。
- | | |
|-------|-----|
| | 79% |
| | 18% |
| | 3% |
- 今の家で生活する
一時的に親類知人名や避難所にいる
引越搬入をする
- ◎ 現在勤めている会社は今回の地震でどうなりましたか。
- | | |
|-------|-----|
| | 1% |
| | 19% |
| | 16% |
| | 54% |
| | 10% |
- 倒産
営業の見通しがたらず
何ヵ月後かに営業可能
現在営業可能
わからない

テレビで元気な姿が放映される

避難者との協力で迎えた 神港高校47回生の卒業式

〈神港高校分会〉

混乱の中で避難者の受け入れ

今回の大震災による未曾有の災害の中で、少しでも日常生活を取り戻す努力が懸命に続けられました。そして、それは現在も地道に続けられています。

神港高校は、前身の神港商業学校から数えてまもなく創立九〇年を迎えようとする伝統校です。地域社会の期待を背に、交易都市神戸を支える人材育成を果たしてきました。しかしながら、普段はまったくといっていいほどそのことは意識されることなく、私自身にとっても「伝統」というのは何か現実味ののないものでした。まして、組合で言われるような「地域社会との交流」など、雲をつかむような話です。

ところが今回の震災で、この地域社会における学校の意義が本当に問われるところとなりました。しゃくし定規な話でいえば、高等学校は神戸市の防災計画からはずれており、指定された避難所は小中学校でした。しかし、今回、近隣の小中学校はすぐに満員となり、多くの被災者が高等学校に避難されてきました。当初は物資も届かず、どの学校も混乱が続けました。その混乱のなかで、出勤した教職員は公務員として真摯に勤務に励みました。しかし、地震から数日たっても、本来の任務である生徒の安否確認すら不十分な状況で、被災者に「学校本来の仕事に戻りたい」と協力を呼びかけました。それに応じて避難され方の中から八名ばかりが集まって、食料・物資の運搬などを始めました。さらにその中から門口充男さんが避難者ボランティアのリーダーを引き受けてくださいました。この後、仕事は水運び、トイレの管理、掃除、生活物資運搬、訪問者の応対と、次々に変化していく仕事をこなすうちに、次第に組織も整ってきました。

教職員・住民・生徒がすべてボランティア

今回の震災の報道では、ボランティアが注目されましたが、その多くは外部から神戸に救援に来るケースだったように思います。ややもすると被災者がそれらのボランティアに甘えているような印象をよぶ報道もありました。しかし、決してそうではありません。たしかに専門家はいなかったけれど、地域社会を守るために被災者もボランティアとして必至に働いたのだ、といったと思います。

震災直後から生徒は何人か顔をみせていましたが、彼らもボランティアの一員として大変な働きをみせました。在校生の学年末考査中は、卒業したばかりの卒業生が代役をつとめてくれました。

このような教職員・住民・生徒の連帯の中で、徐々に日常が取り戻されていきました。日常とはきれいごとではなく、つまり、要領のいい人もいればお人好しもあり、あつかましい人もいればひかえめな人もいるということです。それなりのトラブルもあったことはたしかです。

避難者も参加した感動的な卒業式

そんななかで卒業式が近づいてきました。例年、会場となる体育館は、避難者でいっぱいです。その当時、神港高校では、五〇〇人余りが避難していました。こんな大変な状況だからこそちゃんとした卒業式をさせてあげたい。ボランティアのリーダーの方々に打診すると、「そりゃ、もつともだ。遠慮することはない」との返事です。しかし、実際には二〇〇人近くの人と物をいったん体育館の大フロアーから搬出し、式後にはまた搬入しなければなりません。綿密な計画が必要です。大フロアーの避難者全員を前にして、校長が頭を下げ、担当教員がていねいに移動手順を説明しました。式の二日前に、大フロアーから教室へ移動していただき、式当日は午前中に式を終わらせたあと、午後に体育館に戻っていただきました。それとあわせて居住性改善のための畳の搬入も行いました。当日の移動は見事でした。予定時間よ

り短い時間で移動は完了しました。避難者の代表にも参加していただいて、卒業式も滞りなく終えることができました。避難者の方々に負担をかけすぎではと心配していましたが、門口さんは、「本当に『手づくり』の式で、みんなが無事終わったことを喜びました。準備からかわったので、当日は自分の卒業式よりも感動しました」といっておられました。

実は、門口さんは本校の昭和四〇年の卒業生でもあるのです。本校に避難された方々の中にも実に多くの卒業生、あるいは身内が卒業生という方がおられます。現在も、在校生の多くが近隣の中学校から進学してきます。過去も含めて、まさしく地域にとけ込んだ学校であるといえるでしょう。大正五年に現在地の会下山に移転して以来、地域とともに発展してきたという、このことが神港高校が落ち着いた避難所でありえたひとつの要員であることは間違いありません。このことは、今後の神港高校の復興を考えるうえで重要なことだと思います。のみならず、学校のあり方を考えさせられる例ではないかと思うのです。

秋山明之

みんな生きていてくれて よかった！

〈御影工高分会〉

謹啓 早々のお気遣いありがとうございました。地震が起こった直後、部屋の中は、本だな、冷蔵庫、テレビ、食器などがひっくり返り、食器や電気などあらゆるガラスものが割れ、凄まじい様子になっておりましたが、やっと部屋は、落ち着きを取り戻してきました。

しかし、神戸の街は悲惨な状況です。ビルが倒れ、家が倒れ、高速道路が落ち、電車は脱線し、火事跡は延々と広がり、道は至るところ

コンクリートが隆起し、写真やテレビで見るともずくとずつとひどい有様です。そして、ほとんどの地域が水もガスも通じておりません。私は、その神戸の街中を自転車で走り回っておりますが、頭の上に何か落ちてこないかとひやひやしています。そしていつもパトカーや消防車や自衛隊車の緊急自動車のサイレンが鳴り響いております。道路は車と自転車の群です。主要な幹線道路は使えないので、大渋滞になっており、その間隙をバイクや自転車が交通法規をまったく無視して走っておりますので、危なくて仕方ありません。もちろん歩いている人もたくさんいるのですが、皆に共通して言えるのは、ネクタイをして歩いている人がほとんどいないことです。老若男女がジーンズをはき、帽子やヘルメットを被り、リュックサックを担いでいます。それは、電車の中でも同じ風景です。私も学校へ行くときでも、リュックを背負い、ヘルメットを被り、ジャンパーの下トレーナーには、何時何があるかも分からないので、「明石市 佐田憲三」と大きく背中に書き、その下に電話番号を書いていきます。通勤するのも命がけなのです。次にもし大きな余震があつて、その時たまたま倒壊しそうな建物の側にいたら、きっと命も危ないと思います。

通勤も困っています。私の家は、現在は明石市の西の端、学校は神戸市の東の端（高速道路が横倒しになったところの近くです）なので、三宮を経由しないと行けないのですが、しかし、その三宮が一番危険な場所なので、交通手段がありません。姫路の方から大きく迂回したコースをとって電車で通ったり、自転車を使ったり、船で神戸港まで行ったり、電車が通っているところまでとりあえず行つて歩いたり、車以外の（車・バイクは神戸復興の邪魔になるだけなので）あらゆる方法をとって試しましたが、家から学校までの片道は、最低四時間、一番かかったときで八時間半もかかりました。

そんな思いをしてまで通勤している学校ですが、授業をしたり、生徒の面倒を見ているわけではありません。私が、地震後、一番最初に学校でした仕事は、遺体を棺桶に入れる作業でした。最初の日には、地震発生後初めて生で見た神戸の街の崩壊にショックを受け、学校の中

② 各職場で起こったこと、忘れないこと

の崩壊にショックを受け、体育館に千人を越える避難民の人々がいるのにショックを受け、そして、教室が三〇体以上の方々の遺体安置所になっているのです。信じられない光景です。私が、棺桶に入れるのを手伝った方は、四〇才ぐらいの男の方でしたが、そばで子供らしき五才ぐらいの女の子が、「早く起きよ」とあどけなく言っている光景に出くわしました。辛かったです。棺桶にいれるときも。服は使えるので裸にして、たった一枚の毛布でくるんであげた上に線香を何本かともしてあげるだけなのです。しかし、まだこの方は良い方でした。変な具合に死後硬直をしまった人は、棺桶に入らないので、布団でくるめられているだけでした。そういう遺体が、何体も何体もあるのです。また、体育館には千人ほどの避難民の方々がおりました。泣き声がとぎれることなくどこかで聞こえていました。今は、職員室もやっと片付けましたが、最初の日、机はひっくり返り、蛍光灯はわれ、本棚は倒壊し、足の踏み場もありませんでした。避難民の人たちも少しは減りましたが、いつこの体育館を出られるのか分かりません。出ていくあてもないのです。そして、この避難民の人々のお世話もすべて私たち教師がやっております、もちろん順番で宿直もあります。食事の世話、水の搬入、衛生面の配慮、支援物資の搬入、行方不明者探しにきた人への対応、ありとあらゆることが教師の仕事です。だから過労死するのではないかと、冗談ではなく心配です。

地震後、最初に学校までたどり着けた日、自分の机がどこにあるのか分からない状態の中で、偶然にもいつも机の上に置いていた、私の大学の恩師の坂詰教授の『敬語 思いやりのコミュニケーション』という本をみつけました。持っていたリュックサックに入れ、その本を帰りのバスの中でめくりました。「はじめにころありき」という言葉を読んだときに、始めて涙があふれてきました。本当にそうだと思います。ここで、ころをなくしたら、人間ではない、教師ではないと思います。残念ながら、放火をしたり盗みをしたりする人もたくさんいます。しかし、自分の身を省みず近所の人を助けたり、今までの仕打ちを忘れ、ボランティアに励む在日の人達もいます。街の状態を

見ると、くじけそうになるのですが、「はじめにころありき」だと、自分にいい聞かせています。私より大変な人達は、たくさんたくさんいるのです。

さて、生徒たちですが、今現在、学校全体では、二人の生徒が亡くなりました。そのうちの一人は三年生で、その彼が一年生と現在の三年生で、国語を担当していました。やっと就職が決まり、あと少しで卒業というところでした。二学期にその生徒が、東洋大学の「現代学生百人一首」に応募した作品は、

内定し嬉しいけれど本心は遊ぶぞ遊べ二〇歳になるまで

二〇歳になるまで、遊ぶことはできませんでした。残念です。ひとつこい、可愛い生徒でした。地震とは同時に家が崩れての圧死だったため、苦しまずに逝ったことがせめてもの救いです。

私は、今、一年生の担任ですが、私の学校は全県一区で、兵庫県ならどこからでも通うことができます。だから、地震後、全員の生死を確認するのが大変でした。交通は麻痺していますし、電話はほとんど通じないのです。外からかける方が通じると聞きましたので、交通が動き出すまでは、夜遅くまで、ずっとだれも来ない駅のプラットフォームの公衆電話から生徒の家にかけ続けました。生徒たちと「生きてるか」と電話をするのは、当たり前のことですが、初めてでした。「先生、家こわれそうやけど、みんな元気や、先生大丈夫か。」こういう言葉を何度も何度も聞きました。今後の生活を考えるととてもこわいのですが、そのときは『生きてる』ということが、本当に嬉しかったです。家を壊された生徒も何人かいて、それぞれ家の近くの避難所へいるか、親戚や知人の家に疎開しています。遠くの県、京都や奈良にまで疎開している生徒もいます。

自分のクラスの生徒の全員の無事が確認されたのは、三日後でした。その間は本当に、心配で心配で眠れなかったです。寝てもうとうとすると、すぐに目が覚めてしまい、また電話をかけてしまう、そういう時間が続きました。テレビで燃えている画面や、高速道路の倒壊現場を見ると、その近くに住んでいる生徒たちにまだ連絡がとれてい

② 各職場で起こったこと、忘れないこと

ませんでしたので、胸が締め付けられる思いでした。

電話が通じたり、避難場所からかけてくれた生徒たちは、みんな素直な子になっていました。「頑張れよ」それしか言えないのですが、その言葉を聞いて、「先生ありがとう、大丈夫や。」泣きながら言うてくれた子もいました。私の声を聞いて、緊張が解けたのか、電話口で鳴咽をあげる子もいました。「ありがとうございます。」と何度も何度も繰り返し返す子もいました。全員無事、と言うことが分かったときには、ほんと胸をなで下ろすなんていうものではなく、本当に腰が抜けそうになりました。その場にへたりこんでしまったのです。

しかし、大変なのは、実はこれからなのです。街があつた状態では、何時全員が登校できて、授業を始められるのか見当もつきません。生徒たちから、日に何人も何人も電話がかかってくるのですが、私が電話を取れた時には、「先生、学校で勉強してるほうがええわ。」と、みんなが同じようなことを口にします。でも、神戸市内で、ほとんど水とガスがきていない状態で、交通網も大事なところに通っていない状態で、学校が普段どおりに再開できるはずありません。登校しても体育館を始め、全クラスが使える教室すらないのでから。

私自身、この先のことを考えると頭が痛くなるのに、家をなくして避難民生活を送っている生徒たちは、どんなにか心細いでしょう。

学校も片付けや避難民の人達の世話で大変ですが、私は、今避難民生活をしている生徒のところを回っています。話をし、いるものがあれば届けてあげます。水もガスも出ていないところが多々あるので、可能な限り私の家に呼んで、風呂にいらしてあげ、あたたかいものを食べさせてあげようと思います。テレビ、ラジオの報道もだんだん減っているようですが、大変なのはこれからです。鉛筆一本もって逃げられなかった生徒たちもいます。できる限りのことをしてあげようと思っています。

募金もたくさん集まっているようですが、私の生徒たちのところへは一円もきていないのが現状です。

私自身、神戸には地震なんて来ないと思っていました。しかし、現

実にはやってきて、一瞬のうちに神戸を地獄と変えてしまいました。この地獄が何時まで続くのでしょうか。早く、普通の生活が、普段の授業がしたいと思います。

しかし、あと地震が二時間遅かったら、私は高速で走る電車の中で。たぶん生きてはいなかったでしょう。そう思うと、大事な命です。有効に使おうと思います。

家内には、子供を連れて名古屋の里に帰るように話をしましたが、「私も先生の嫁だから、生徒の面倒を見る。」と言って、まだ余震の続く明石に残っています。とりあえず、家族三人頑張っていこうと思います。

とりとめもないことを長々と書きました。また、最初は自筆で書いていたのですが、とても読めるような字が書けません。本意ではなく失礼だとは存じますが、乱文のワープロ書きで、ご勘弁くださいませ。地震には、くれぐれも気をつけて、ご自愛くださいませ。右、御礼まで。敬具

佐田憲三



スケッチ●神戸市立須磨高校2年

神戸市立神戸商業高校での ボランティア体験記

〈名古屋市立高等学校教職員組合名古屋分会〉 岡田 晴彦

二月二四日(金)～二七日(月)の間、神戸商高でボランティア活動に参加しました。阪神大震災後の神戸の惨状に心を痛め、避難所で生活されている人達に何かしてあげられないものかという思いから、名高教本部にボランティア参加の申し出をしました。学校や組合でのお付き合いのある神戸市立高校を希望したところ、神戸市立高教組が全教に加盟している関係で、尼崎市の全教の対策本部から神戸商高を紹介してもらいました。

避難所で生活されている方が減少していること、大学生が春休み中で相当数がボランティアに参加しているということもあって、現在のところボランティアは充足されているようで、突然行ったりした場合には、断られたり、たらい回しにされたりするケースも少なくないようです。私の場合は、幸いなことに組合ルートで学校へ行ったので、何とか参加できたのが現状です。

二月二四日(金)の十時過ぎに神戸商高へ到着しました。神戸市立高教組の書記次長でもある谷川先生に迎えていただき、現状をいろいろ教えていただきましたが、ボランティア本部へ案内してもらいました。

神戸商高の建物の多くが傾いたり、一階部分がくずれたりしているために、建て直さなければならなくなっています。校舎をこわす工事はすでに始まっています。また、体育館には約二〇〇名、グラウンドのテント村には約一〇〇名の方が避難生活を送っておられます。はじめの頃は一五〇〇名近い人が避難されていて、校舎や体育館はあふれるような状態だったそうです。今でも先生方は三名ずつ交代で体育館教官室で宿日直を続けられています。

神戸市立高校では、神戸商高の他数校が大きな被害を受けていること、多くの生徒が家を失ったり、家族を失ったりしているとのことでした。全国から神戸市立高教組に寄せられた義援金は約一〇〇〇万円あるそうですが、これらの生徒に少しまとまった金額を配布しようと試算したところ、全然足りないことが実状だそうです。正直な気持ちには「何よりもお金がほしい」ということのようにです。

神戸商高のボランティアは二〇名くらいいます。大学生がかなりを占めています。ボランティア休暇を取ってきた社会人や中学生・高校生までいました。

名古屋市立高校出身で建築会社に勤務している人がいたり、愛知県立高校出身で地元の会社に就職している人は私の家の近所の独身寮に住んでいることが分かったりしてびっくりしていました。ボランティアには食料や身の回りのものを配ったりする「物資係」とお風呂を沸かす「風呂係」とがあって、私は風呂係でした。神戸商高には一週間ぐらい前に仮設の風呂が体育館と格技場の間のところに取り付けられました。私のボランティアとしての生活は、朝は六時半頃起きて、昨日残った物や自分でもつてきた物などの有り合わせの朝食をとることから始まります。その後はボランティアが宿泊している社会講義室の清掃などをしました。風呂を沸かすこと以外に、布団乾燥機を積んだ車へ毛布を運んだり、京都の農業高校から届いた花を運んで並べたり、様々なことをしました。風呂係は朝一〇時頃から、風呂の掃除と水にくみ始め、一一時頃から沸かし始めます。自衛隊などが廃材を運んできてくれるので、これを割って薪にしています。日によっては少し異なりますが、女性は二時から四時頃まで、男性は四時頃から七時までが入浴時間です。その案内の紙を掲示板に貼ったり、テント村や体育館の中を伝え歩くことも仕事です。終了後にも希望者がありますし、ボランティアも入りますから、終了は七時半過ぎです。その間、昼食・夕食の弁当や炊き出しの野菜スープを食べながら仕事をしました。三つの浴槽で沸かした湯を仮設テントの中にある二つの浴槽にポンプで送る仕組みですから、常に湯を沸かし続けなければなりません。毎

日五〇名くらいの方が入浴されます。私は二日間入浴せず、三日目に入浴したときは、サッパリして本当にイイ気持ちでした。入浴された方はどの方も「ありがとうございました」とお礼を言われながら、帰って行かれるので、少しはボランティアに行った意味があったかなと思います。

つらいこともあります。一歳くらいから小学生くらいまでのお子さんを連れていられる方たちは正視できませんでした。あいさつをしても私は下を向いたままで、それ以上何もできませんでした。自分だったらと思って、胸が苦しくなっていました。無表情の方も少しおられ、あいさつをしても反応がないので、私も下を向いてしまいました。風呂を待っている二人の方とたき火にあたりながら話をしていた（話を聞くことも大切な仕事なのですが）。家が半壊している方は比較的明るいのですが、もう一人の方が「家が焼けてしまったけん。類焼やったけどね」と言われたときは、先の方と私は言葉に詰まって話すことができなくなっていました。

三月下旬くらいから二度目の仮設住宅への入居が始まるそうです。家族連れの方の多くはこの時に移って行かれるだろうという予測がされています。四月以降も各地の避難所に残られるのは老人世帯が多くなり、その後は避難所をどう運営していくかが深刻な問題のようです。大学生のボランティアも期待できにくくなります。

今後の教員組合のボランティアについてですが、日帰りや一泊二日程度では、その学校の組合の代表の方、区役所から派遣されている職員の方、ボランティアの責任者の方、それぞれ多忙であるのに（中には自分の家が半壊しているという方方も少なくありません）、余分な仕事を作るだけで、善意で行くことは確かなのですが、はっきり言って迷惑なだけだと思います。それだけの意欲があれば、その交通費を計算してその分だけ、義援金として送った方が余程役立つと思います。私がこれを書いているのも（行くまでは書く予定がなかったのですが）、ボランティアとして役に立ってなかったのではないかと思っていますからです。そうであれば他にできることといえば、組合員の皆

さんに義援金をもう一度呼びかけて集めることしかありません。神戸商高のボランティアの予定についてですが、三月中旬以降の予定はたっていないません。大学生は中旬以降かなり減少するという予測です。

最後に、この四日間に感動的なことも経験しました。ボランティアと言ってもいろんな人がいます。岐阜県からは、AETの方がきていました。アングスさんといってイギリス人ですが、上宝村の小学校と中学校で英語を教えているそうです。岐阜県教組のニュース見て年休を取って三月四日まで一週間滞在することになっています。神戸商高のAETの人もさっそく話し合っていました。勉強熱心な人で（大学は情報工学を専攻していたそうです）、日本語も流暢でしたが、風呂をたきながらノートを読んで日本語の勉強をしていたので、二宮金次郎の話をあげました。大学生や社会人の人も良く働いていました。朝六時半くらいから夜は八時過ぎまでほとんど休むことなく黙々と働いていました。社会人の人は一週間程度ですが大学生は二〇日間とか一か月とか二か月近くの予定の人もいました。風呂に入れるのは一週間に一〜二回です。夜遅くまで打ち合わせをしていたのに、朝六時半にはもう働らいているのには驚きました。東京と関西の人が多いのですが、札幌と熊本の人もいました。三月下旬にまた会うことができる人もいましたが、帰るときに一人一人に挨拶をしてきました。どの人も笑顔がとても素敵でした。

（「名高教情報」より）

全教 ボランティア大活躍

〈京都府立高等学校教職員組合〉

全教近畿ブロックの呼びかけによる救援ボランティア活動が一月二八日〜二九日の二日間にわたり行われました。二八日は西宮、神戸あわせて一三二名、二九日には神戸などに一四五名が参加しました。府高か

らも、まだ府高に加入されていない二名を含む二二名が参加されました。

一八日(土)の活動の概要

■西宮市役所と尼崎の全教・日高教対策本部に集合し、西宮市と神戸市の救援活動に入りました。

■尼崎への救援隊は、神戸市立高校八校の避難所および、東灘区役所から数力所(兵庫労連の救援隊と合流)に支援に入りました。

■とくに、泊まり込み隊は市高の避難所で活動を展開しました。西宮への救援隊は各避難所へ入りました。

■大阪から参加した「連合」教組の仲間は「自分の組合の幹部に支援に行きたいと言ったが、断られたので友人を訪ねて参加した。一緒にやらせてほしい」と発言。

■日高教に加盟していない福井や横浜市の高教組の仲間も参加。滋賀県からの救援隊には多数の未組合員や「連合」教組の仲間も。

■物資の片付け、食事の配給補助など行いました。

一九日(日)の活動の概要

■前日からの泊まり込みの人は午後六時まで奮闘しました。

神戸市立高校へ救援に入った方に対して神戸市高教委員長からお礼の電話がありました。

全教障教部近畿ブロック

障教部独自で炊き出し

●京都からタマネギ一二〇〇個持参障教部／小宮山

二月一日、全教障教部近畿ブロックとして、神戸市立盲学校へ支援にいつてきました。市盲の教頭が校長室で私たちにいねいに対応してくださり、避難している市民の状況や要求などについて語ってくれました。特に食事について様子を具体的に知ることができました。

食事は朝がパンで、昼は無しの時が多く、夜は冷えたご飯がほとんどという状況のようです。

とりわけ、温かい食べ物と野菜を必要としています。野菜はすぐに食べれる物や保存のきく根菜類などどんなものでも喜ばれるということです。避難所によつては、食事や救援物資の配給に差があるようなので、救援物資やボランティアの内容についてはリアルタイムで現地からの要求に対応できるように組合本部との連絡を密にとることの必要性を痛感。なお、ボランティアへの参加は現地で歓迎されていますが、対応する係りの方も多忙と疲労のため、臨機応変に活動内容を指示できないときもあるようです。

教頭先生の「この被害の実態を見てもらい救援の輪を大きくしていただくためにもここへ来ていただきたい」との言葉が耳に焼きついています。

二月四・五日は近畿ブロックとして一三〇名が参加し、炊きだしと班編成による被災地入り(住民の要求聞き取り)を中心に活動予定です。京都からタマネギ一二〇〇個を持って行きます。

(「京都府高」より)

すごい若者もいっぱいいる

〈和歌山高等学校教職員組合・日高分会／笠野哲也〉

電車が武庫川を越えたあたりから、車窓に飛び込む風景は、報道では知っていたが、神戸に住んでいた僕には言葉もないくらい状況。梅田駅から普通なら一〇分の距離でこうも様子が変わるのか。

青木駅を降りるとそこからは人の列。歩き始めてすぐ、全壊した住宅のがれきの上に水と花が添えてある風景があらこちらに。震災直後を想像すると…。国道二号線をひたすら西へ歩き続ける。通行規制をしているから以前ほど車の渋滞はない。道の両側は、まったく原型を残さない住宅、傾いたビル。撤去作業の様子が報道されているが、

現実には極めて一部。復興のつち音なんて聞こえてこない。細い道路は両側からの崩れた家屋で通行不能。そんな情景がここにもそこにも。元の街並みに戻るのはいつの日か。

灘区に入る。学生時代の風景がおぼろげにのみがえってくる。大学からの帰り道のアーケード街はつぶれて通行不能。定食を食べにいった店の付近一帯は焼け野が原。あのおじさん、おばさんはどうしたのだろう…。

一時間三〇分くらい歩いて昼前にやっと西灘小学校に到着。

避難所は整然とはしているが、みんな忙しそうでなかなかかまってもらえない。「ボランテアには来たけれど…」不安がよぎる。しかし、不安はすぐに消し飛んだ。一二時から昼食を配布するのに人手がいるのだという。すぐに飛んでいった。この時から五人は食事配給係になってしまった。このときわかった「指示されなくても自分のできることをやろう」「せっかく来たのだから一分でも多く動こう」それがボランテアなのだ。食事の配給は難しいという。全員にわたるだけの数のないものは配給できない。「平等」が原則だから。ここには二〇〇名近くの人がいるという。以前自衛隊がカレーライスの炊き出しに来たが、一五〇〇食が限度だと言うので泣く泣く断ったという。

ここでは温かいご飯にはまだありつけない。朝は一人パン一個と牛乳またはジュースとみかん。昼食も同様のものに缶詰が付く程度。夕食は冷たくなったご飯やおにぎりに缶詰、それに炊き出しの雑炊である。炊き出しをしているチーフは、自らを「東京のバカ学生ですよ」と言っていたが、自転車ですべて、もう一週間もいるという。何が「バカ学生」なのか。こんな若者もいる。

食事を配り終わると次の物資がトラックでやってくる。パンだけでも一回にパンやさんのケース三〇〇ケースくらいやってくる。それを降ろして賞味期限ごとに仕分けをしていく。そんな作業が何回か続く。ここは国道二号線のすぐ近くで避難所としても大きいので物資はたくさん入ってくる。しかし、小さい避難所や壊れかけた住宅で住んで

いる人は食事にも困っているという。小学生くらいの子が何キロも歩いて食事をもらって帰っていく。そんな話を聞くと同じ年頃の子を持つ親として涙が出そうになる。

青空市を始めるという。倉庫から救援物資の衣料品の段ボールを運び、仕分けをして並べる。三〇キロの原発バザーで手慣れたものだ。救援物資の箱の中には余りにも失礼な物もある。「不用品の捨て場じゃないぞ!」と言いたくなる。

5時からまた夕食の配給。

ひとごちついて、雑炊をごちそうになった。僕も朝から温かい物は始めて口にする。腹の中にしみわたるような気がした。

夜のミーティング。まず各係から今日の反省と明日の予定を報告する。次は各班長から要望を聞く。

極限状況の中、無茶な意見、要望もでる。それを総括する人は穏やかな表情で上手にまとめていく。この人はこの学校の先生だという。西宮、神戸市内の避難所になっている学校の教職員は大変だ。自分の家も被害にあっているだろうに、学校で避難している人や子供の世話をし、まとめている。身体をこわさなければよいかと案ずる。

たった一泊二日であったが、見たこと、動いたこと、出会った人から学んだことは沢山あった。

帰りの電車の中から今日までいろいろな思いがでてきた。今年は戦後五〇年だという。五〇年前、日本全国が神戸のような状況で救援物資もなく、もともと悲慘だったのだろう。改めて平和の尊さを実感した。学校が避難所になる中で頑張る教職員の仲間と働いて、地域の中で学校や教職員の果たす役割はなんなんだろうということも。「今の子は」とよく言うがすごい若者がいっぱいいることも。そして今日も食事の時間になると、「神戸ではまだ避難所の生活が続いているんだよ」ということも。「がんばれ神戸。がんばろう神戸。」そんな思いでいっぱいです。

(「和高教」より)

教職員・ボランティアの活動から

〈神戸市立摩耶兵庫高等学校分会〉

一九九五年一月一七日午前五時四六分、突然おそった大震災。家族の安否をきづかい、職場の仲間の安否をきづかい、生徒の安否をきづかい電話をしまわる。生徒一人の命を奪い、四二人の生徒の家を全壊させ、二二人の生徒の家を半壊させた。我々教員の仲間も、我が家を全壊させられた者二人、半壊させられた者三人、一部損壊させられた者一人、被害のない人は誰もいなかった。

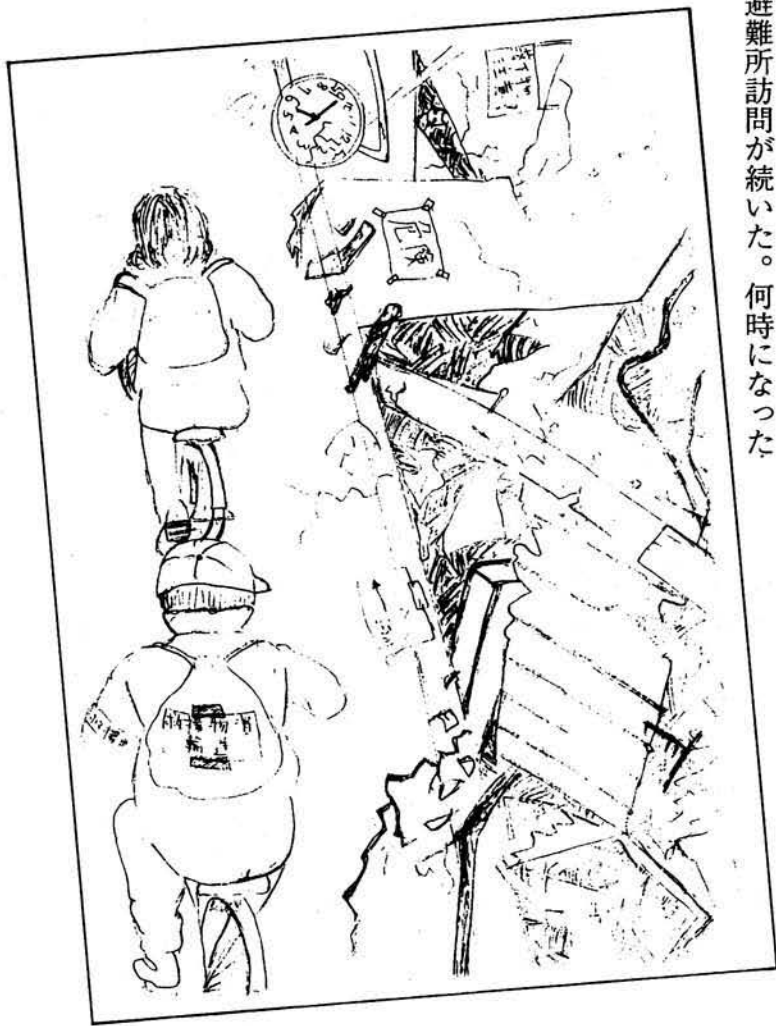
学校はその日から臨時休校、地域住民の避難所として開放された。家をなくし、余震に脅える三〇〇人を越える住民が宿泊した。交通手段が遮断された中、教員は、徒歩、自転車、単車、自動車で何時間もかかりながら学校へ通勤した。おにぎり、パン運び、分け、川からの水をくみあげ、ゴミの処理をした。交代で泊まり込みの勤務をした。生徒の安否をきづかい家庭訪問、避難所訪問が続いた。何時になった

ら学校が再開できるのだろうか、再開の準備ができるのだろうかと気遣いながら、教員は献身的に避難者に奉仕した。

避難者も疲れ、教員も疲れ風邪が蔓延し始める。そのようなとき来てくださったのが福井の松原病院の皆さまです。摩耶兵庫へ紹介くださった藤見先生本当にありがとうございました。二四時間待機、我々の心の支えとなりました。大阪・松江から応援に来ていただいた自治労青年部の皆さま、全国から応援いただいた全教・日高教・私教の皆さま、奈良女子大の皆さま、あつたか風呂の皆さま、炊き出しをしていただいたレッドウイズの皆さま、吉兆の山本さま、九大病院の皆さま、共同作業所の今井さま、本当にありがとうございました。摩耶兵庫の教職員学校再開のため、校務につける時間をとることができました。

心温まる援助を行っていただいた三四一人のボランティアの皆さま、本当にありがとうございました。紙面をおかりしてお礼申し上げます。

(ボランティア・職員日誌より)



スケッチ・神戸市立須磨高校2年

ボランティア・職員日誌より

引継	★Y6. 親戚の人 飯田先生 読書家
2月22日 (水) 曜日	
引継事項	18:10 本夜に3人との別居の夕食を取りに井上金太郎さんと 1人あり。井上金太郎さんと3人。最近の病状 午前午後 旅部明子と焼肉1人あり ・外園内川水ありといふので、お水あり ・お水ありかきき?? 4:15 吉田先生 朝早くから、お水あり。お水あり。お水あり
引継事項	お水あり。お水あり。お水あり。

2/24(金)

全教 2名 (福岡県立高校教員・白河女子高校)

尼崎教育会館集合

am. 9:00 唐那央庫南校到着

11:30 金会(ラーン)総会

12:00 玄間前掃除手分け(唐那央庫南校生徒主体)

13:00 玄間前掃除完了

14:00 校外巡回 破壊物搬入

15:00 神戸市消防組車長と訪問・お礼

14:00
15:00 神戸市消防局 等々

2/24 (金)
全数5名 (堺市居交 5名 = 盲学校2名、行田養2名、堺高部2名)
○昨日、10名で来集し、2名は車取中、残8名は居村の予任。
○今日は明日の西出公園での出だしのため、5名宿泊せしめ、3名は車取中。
○兵庫へは昨日に来集し、居村のあとに被爆者を一歩ずつ、要求を
聞くと活動を展開する。但車中車を借用し、市内中を地図を指して捜し歩いた。
○その中で、一人の被爆者といふが話すところでは、話を聞いたことが
なかった。

今日の流水
9:00 長高穀組 出発
12:00 原本備に報告
13:00 長田の現地調査
14:00 長高穀組 2 荷物を持ち、2 出発
15:00 25.5 に着く。

[illegible]

2月17日(金) 全教4名(大阪・滋賀・東京2名)
訪問地
1、西出町公園
2、いこいの家避難所
3、西出町公園近くの集会所
避難していた老人に頼まれて、洗濯機、フライパン、ガスレンジ、灯油缶、ファンヒーターを取り出した。
老人と対話した
4、地域各家庭訪問
建物の被害調査の問い合わせを受けたので建築相談ボランティアを紹介した。

2月18日(土) 全教4名(東京2名・京都・埼玉)
訪問地 2号線沿いの東川崎町(いなり商店街)、西出町、浪町公園
食パン約80個被災者に配って歩いた。非常に喜んでもらった。
浪町公園付近のクリーニング店(全壊家屋)から商品を選び出した。
浪町公園の転と生活の人に車手、ホッカイロを5組ずつ手渡した。
入浴できないので下着が欲しいという要望があった。特に、白色の物より汚れの日立
たない柄物がいいのですがということだった。
隣の盲学校と浪小学校に人手が足りているか聞いてみたが今は間に合っているとのこと
だった。学生ボランティア中心に活動していて、他の近隣避難所のボランティアと情報交
換を取りたいということだった。

③ 全国からの応援・激励

氏名	所属	来校日・期間	氏名	所属	来校日・期間
?	和歌山県(?)医療看護団	1,21	田辺信也	藤井寺工業高校(大阪)	2,07~
?	医療看護団(整骨治療関係)	1,22	岩井正幸	藤井寺工業高校(大阪)	2,07~
片木	兵庫医療生活協同組合・神戸診療所	1,23	柳澤伸彦	藤井寺工業高校(大阪)	2,07~
?	日赤医療看護団	1,23	出羽研吉	田辺東部小学校(和歌山)	2,07~
?	豊中市医療看護団	1,24	長坂輝夫	静岡県高教組	2,07~8
宮腰明志	福井松原病院医療団	1,25~	出口進平	門真教職組合(大教組)	2,08~
吉田民一	福井松原病院医療団	1,25~	森 稔泰	綾部市教職員組合	2,08~
高村保彦	福井松原病院医療団	1,25~	吉田信夫	大阪府立高教組(大教組)	2,08~
近藤和成	福井松原病院医療団	1,25~	石川里美	大阪府立高教組(大教組)	2,08~
田中 誠	福井松原病院医療団	1,25~	丹賀光一	大阪府立高教組(大教組)	2,08~
松原六郎	福井松原病院	1,25~29	松下孝徳	大阪府岸和田教組(大教組)	2,08~
賀陽 清	医師	1,27	山中愉子	和歌山県高教組	2,08~
関 正江	福井松原病院医療団	1,27~30	伊藤彰彦	静岡県立吉原工業高校	2,08~
中山喜代美	福井松原病院医療団	1,27~30	伊藤和泉	静岡県立富士東高校	2,08~
?	松江市職	1,28	川上 誠	大阪市役	2,08~
福田正尚	大教組(八尾)	1,28~29	野沢一公	大阪市役	2,08~
保田隆也	大教組(堺)	1,28~29	松永誠司	大阪市役	2,08~
渡辺武志	自治労青年部	1,28~30	西田幸司	大阪市役	2,08~
松山雅彦	自治労青年部	1,28~30	林 純	九州大学医学部付属病院	2,08~ 2,28~ 3,15~
江村俊彦	自治労青年部	1,28~30	平川雅章	九州大学医学部付属病院	2,08~10
石川和典	自治労青年部	1,28~30	西岡 保	九州大学医学部付属病院	2,08~10
田辺義高	自治労青年部	1,28~30 3,12~	馬場英子	九州大学医学部付属病院	2,08~10 16~18
吉田真沙子	福井松原病院医療団	1,29~2,2	青田義一	高教組(中播支部・福岡高校)	2,09
天谷敦子	福井松原病院医療団	1,29~2,1	西村彰範	高教組(中播支部・福岡高校)	2,09
上野結美	福井松原病院医療団	1,29~2,2	中條秀一	大阪府高教組	2,09~
渡辺 一	福井松原病院医療団	1,29~30	高倉博幸	大阪府かどま教組	2,09~
岩本敏浩	高教組(豊岡実業高校)	1,30 2,4	柴田 忍	埼玉高教三郷高分会	2,10~
田中久典	高教組(豊岡実業高校)	1,30 2,4	小澤彰一	長野高教組木曾高校分会	2,10~
藤見勝彦	藤見医院	1,30~2,3	嶋本享之	自治労大阪市青年部	2,10~
宮原輝彦	大阪市役青年部	1,30~31	東 陽一	自治労大阪市青年部	2,10~
榎本浩二	大阪市役青年部	1,30~31	松永幸男	自治労大阪市青年部	2,10~
中嶋広企	大阪市役青年部	1,30~31	角 哲郎	全教滋賀	2,10~
西岡利昌	大阪市役青年部	1,30~31	古澤仁志	自治労大阪市青年部	2,10~ 3,15~
吉久保芳彦	自治労大阪市職青年部	1,30~31 2,22~	西村輝正	自治労大阪府本部青年部	2,10~ 3,3~
宮本隆司	大阪市職青年部	1,31~2,1	岡田 薫	九州大学医学部付属病院	2,10~12
藤田浩一	大阪市職青年部	1,31~2,1	平川良宏	九州大学医学部付属病院	2,10~12
柿原正秀	大阪市職青年部	1,31~2,1	浦川伸治	九州大学医学部付属病院	2,10~12
吉崎英一郎	大阪市職青年部	1,31~2,1	渡邊弘子	九州大学医学部付属病院	2,10~12 20~22
大下正芳	大阪市職青年部	1,31~2,1 2,2~3 2,4~	三浦弘恵	九州大学医学部付属病院	2,10~12 20~22
舟田正志	高教組(長野県)	1,31~2,2	外山泰三	大阪府高教組	2,11~
松下浩二	大教組(東北)	2,01~2	黒川 忠	大阪府高教組	2,11~
川口篤志	大阪市役青年部	2,01~2	小島島正典	大阪府高教組	2,11~
吉本幸生	大阪市役青年部	2,01~2	野田秀夫	大阪府高教組	2,11~
藤田 学	大阪市役青年部	2,01~2	藤田耕治	大阪府高教組	2,11~
吉村茂雄	大阪市役青年部	2,01~2 2,26~	野口お里	滋賀高教組	2,11~
野嶋 淳	大阪市役青年部	2,01~2 2,6 3,3~	三木和幸	和歌山高教組	2,11~
稲葉ミツ子	福井松原病院医療団	2,01~3	山野 彰	大阪市立泉尾工業高校	2,11~ 2,18
金井隆幸	大阪市職青年部	2,02~3	山井田勝朗	大阪市立泉尾工業高校	2,11~ 2,18
六條和裕	大阪市職青年部	2,02~3	木原和子	大阪市立泉尾工業高校	2,11~ 2,18
野坂猛夫	大阪市職青年部	2,02~3 14~16	小畑永子	奈良女子大学・教育方法学教室	2,11~ 2,19
吉田詠二	大東市職青年部	2,03~4	中井千香子	奈良女子大学・教育方法学教室	2,11~ 2,19
植野哲志	大阪市役青年部	2,03~4	西川雅美	奈良女子大学・教育方法学教室	2,11~ 2,19 2,28~ 4,1
綱田史久	大阪市職青年部	2,03~4	荒垣美穂子	奈良女子大学・教育方法学教室	2,11~ 2,23~24
前田孝博	大阪市役青年部	2,03~4 2,28~	前田和実	奈良女子大学・教育方法学教室	2,11~ 2,23~24
福島康裕	大阪市役青年部	2,03~8 2,8~	田中徳子	奈良女子大学・教育方法学教室	2,11~ 2,28~
野原昌弘	大阪市職青年部	2,04~2,6	谷村雅彦	レッドウイズ	2,12
疋田一弘	大阪市職青年部	2,04~2,6	北野太陽	レッドウイズ	2,12
尾家淳一	大阪市職青年部	2,04~2,6	井澤一雄	レッドウイズ	2,12
中塚 彰	高教組(長野県)	2,04~5	北野与志江	レッドウイズ	2,12
北林清光	高教組(長野県)	2,04~5	谷村千真	レッドウイズ	2,12
三浦正二実	高教組(長野県)	2,04~5	濱西英和	レッドウイズ	2,12
原田 薫	県教組(和歌山)	2,04~5	濱西百合子	レッドウイズ	2,12
岡林登志郎	高教組(高知県)	2,04~5	金地真一	レッドウイズ	2,12
倉橋楠雄	高教組(高知県)	2,04~5	金地美紀代	レッドウイズ	2,12
山下弘幸	九州大学医学部付属病院	2,04~6	金地洋一	レッドウイズ	2,12
吉川 学	九州大学医学部付属病院	2,04~6	中川 治	レッドウイズ	2,12
前田義信	九州大学医学部付属病院	2,04~6	野島香貴	レッドウイズ	2,12
浜崎 功	九州大学医学部付属病院	2,04~6	J ジョニー	レッドウイズ	2,12
中尾重太	九州大学医学部付属病院	2,04~6	北野克史	レッドウイズ	2,12
井上登美子	九州大学医学部付属病院	2,04~6 22~24	松岡満雄	レッドウイズ	2,12
真弓恵美子	九州大学医学部付属病院	2,04~6 22~24	安室奈千江	福岡高校	2,12~
鈴木嘉之	高教組(京都府・久美浜高校)	2,05~6	吉田正徳	摂津市職員	2,12~
西光正博	大教組(南河内)	2,05~6	吉田敏浩	摂津市職員	2,12~
中野主朗	高教組(大阪府)	2,05~6	門井利昭	摂津市職員	2,12~
須佐 宏	高教組(和歌山)	2,05~6	酒井浩徳	九州大学医学部付属病院	2,12~14
田中活介	高教組(和歌山)	2,05~6	未安正典	九州大学医学部付属病院	2,12~14
由井哲司	和歌山教組・日置小学校分会	2,06	西木戸 勉	九州大学医学部付属病院	2,12~14
渋谷啓司	大阪市役青年部	2,06	佐藤千恵子	九州大学医学部付属病院	2,12~14 18~20
長野嘉之	大阪市役青年部	2,06~	石橋直子	九州大学医学部付属病院	2,12~14 18~20
井上友弘	大阪市役青年部	2,06~	河野秀樹	長野高教組(野沢北高校)	2,14~
大川洋一	大阪市役青年部	2,06~	松林 直	九州大学医学部付属病院	2,14~16
山本真吾	株・京都吉光	2,06~	二神幸次郎	九州大学医学部付属病院	2,14~16
山本高正	和歌山教組(南紀養護学校)	2,06~	上村 二	九州大学医学部付属病院	2,14~16
市川晃治郎	九州大学医学部付属病院	2,06~8	坂井 靖	大阪狭山市職	2,14~2,16
牧野和隆	九州大学医学部付属病院	2,06~8	古頃孝司	大阪狭山市職	2,14~2,16
斉藤弘明	九州大学医学部付属病院	2,06~8	西戸浩嗣	相原市職員	2,14~2,16
千葉俊彦	長野県伊那北高校	2,06~8	堅木康弘	相原市職員	2,14~2,16
羽江彰子	九州大学医学部付属病院	2,06~8 14~16	河西 享	長野高教組	2,15~
三池優起子	九州大学医学部付属病院	2,06~8 14~16			

氏名	所属	来校日・期間	
北村久雄	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
武田裕文	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
大町史朗	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
竹中南背哉	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
池田政人	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
畑 晃子	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
石馬ノ美香	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
泉谷しのぶ	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
中野 岬	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~	
石渡由紀夫	連合神奈川	2.16~	
深沢一夫	連合神奈川	2.16~	
須田靖也	連合神奈川	2.16~	
荒木裕美	連合神奈川	2.16~	
鈴木正恵	連合神奈川	2.16~	
小林照夫	連合神奈川	2.16~	
豊田奈津子	連合神奈川	2.16~	
斉藤春生子	連合神奈川	2.16~	
若林幸一郎	連合神奈川	2.16~	
小瀬良満幸	連合神奈川	2.16~	
岡 浩明	大教組 (羽曳野市立高鷲南中学校)	2.16~	
長岡雅信	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~ 2.22~	
小林清貴	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.16~ 2.22~	
長井 実	大教組 (羽曳野市立高鷲南中学校)	2.16~17	
上村和紀	九州大学医学部付属病院	2.16~18	
西藤英樹	九州大学医学部付属病院	2.16~18	
秋吉勝国	九州大学医学部付属病院	2.16~18	
高井靖文	自治労枚方	2.16~18	
山下浩太郎	自治労枚方	2.16~18	
上井利員	大阪市従	2.16~18	
倉内伸之	大阪市従	2.16~18	
澤村信二	大阪市従	2.16~18 2.28~	
菅沼隆宏	埼玉高教 (越ヶ谷高校)	2.16~20	
赤穂寛明	京都府天田郡三和町職	2.16~22	
神 毅	全教 (練馬区立旭丘中学校)	2.17~19	
宮越弘子	全教 (都立北養護学校)	2.17~20	
井上宣哉	大阪市立泉尾工業高校	2.18	
藤岡義雄	大阪市立泉尾工業高校	2.18	
大石真上	大阪市立泉尾工業高校	2.18	
友田紀子	大阪市立泉尾工業高校	2.18	
木村悦子	大阪市立泉尾工業高校	2.18	
村上雅子	大阪市立泉尾工業高校	2.18	
中森てるよ	大阪市立市岡商業高校	2.18	
六辻丈夫	大阪市立泉尾工業高校	2.18	
宇野利彦	自治労青年部	2.18~	
阪田海彦	自治労青年部	2.18~	
新田浩二	自治労青年部	2.18~	
黒川洋匡	自治労青年部	2.18~	
森 隆	自治労青年部	2.18~	
人見皆樹	自治労青年部	2.18~ 2.24~	
大西将之	自治労青年部	2.18~ 3.21~	
樋谷綱規	自治労青年部	2.18~ 3.27~	
鈴木卓矢	自治労大阪学職労	2.18~19	
小池博士	都教組	2.18~19	
細谷宜朗	都教組	2.18~19	
細井正史	滋賀高教組 (瀬田工業高校)	2.18~19	
川口朋子	大阪岸和田教組	2.18~19	
竹中賢治	九州大学医学部付属病院	2.18~20	
藤下 修	九州大学医学部付属病院	2.18~20	
山下聖夫	九州大学医学部付属病院	2.18~20	
脇坂与志子	奈良女子大学・教育方法学教室	2.19	
若杉亜香根	奈良女子大学・教育方法学教室	2.19	
高安 暢	秋田高教組 (雄物川高校)	2.19~2.21	
大江昇一	自治労青年部	2.20~	
井上博雅	九州大学医学部付属病院	2.20~22	
小林光恵	九州大学医学部付属病院	2.20~22	
岡部幸生	九州大学医学部付属病院	2.20~22	
徳田 修	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
米田好子	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
荒谷美幸	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
上阪郁子	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
植村智郷	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
小西申洋	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
大吉 浩	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
芝野広治	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
松内信幸	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
浅田英二	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
伊藤亮治	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
横尾裕一	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
辻井 修	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
木原誠司	自治労大阪市職 (都島区役所支部)	2.22~	
貴嶋乙文	枚方市労連青年部	2.22~	
永井和宏	高槻市職労青年部	2.22~	
野田哲也	阪南市職青年部	2.22~	
布施秀樹	阪南市職青年部	2.22~	
尾山純一	九州大学医学部付属病院	2.22~24	
藤原成美	九州大学医学部付属病院	2.22~24	
松崎信幸	九州大学医学部付属病院	2.22~24	
西村富士子	奈良女子大学・教育方法学教室	2.23~24 4.1~	
東條宏美	奈良女子大学・教育方法学教室	2.23~24 4.1~	
高橋信一	埼玉高教本部	2.21~	
大谷雅志	埼玉県立盲学校	2.24~	
新井和明	埼玉県立行田養護学校	2.24~	
金谷幸男	埼玉県立行田養護学校	2.24~	
宮戸真一郎	埼玉県立盲学校	2.24~	
村田 一	自治労青年部	2.24~	
上中真紀	自治労青年部	2.24~	
竹下和法	自治労青年部	2.24~	
新谷弘樹	自治労青年部	2.24~	
小川和英	福島県立高教組 (白河女子高校)	2.24~25	
斉藤 毅	福島県立高教組 (白河女子高校)	2.24~26	
中尾 忍	香川県教組	2.25~	
大野孝之	香川県教組	2.25~	
増田人志	香川県教組	2.25~	
人倉健来	香川県教組	2.25~	
Matthew Lye	香川県教組	2.25~	
十河昌基	香川県教組	2.25~	
谷本 守	香川県教組九尾養護学校分会	2.25~ 3.29~4.3	
辻 泰生	大阪府三島郡島本町職員	2.26~	
岡本和久	大阪府三島郡島本町職員	2.26~	
田中雄一郎	大阪府三島郡島本町職員	2.26~	
岡田 寛	大阪市職青年部	2.26~	
小松 健	京都立北養護学校	2.27~	
内田順子	京都府立鴨沂高校	2.27~ 3.11~	
池田 充	大阪市従青年部	2.28~	
交野 優	大阪市従青年部	2.28~	
中井美保	奈良女子大学・教育方法学教室	2.28~	
北村幸子	九州大学医学部付属病院	2.8~10 6~18	
奥平武志	阪南市職青年部	2.02~3	
岡本清志	大阪市立新東淀中学校	3.01~	
森田健嗣	大阪YMCA国際専門学校高等課程	3.01~	
青山理奈	大妻中野女子校	3.01~	
崎谷仁昭	北区立赤羽中学校	3.03~	
添郷展弘	自治労大阪	3.03~	
上山仁司	自治労大阪	3.03~	
松本巨弘	自治労大阪	3.03~	
松井孝司	大阪市職青年部	3.06~9	
富田敏明	大阪市職青年部	3.06~9	
黒木 茂	大阪市職青年部	3.06~9	
永井和宏	高槻市職青年部	3.06~9	
小山洋一	長野高教組	3.08~	
田中静身	長野高教組	3.08~	
舟田弘子	長野高教組	3.08~	
奥野展久	大阪府南河内郡太子町職員	3.09~12	
木田悟朗	大阪府南河内郡太子町職員	3.09~12	
杉内勝広	大阪府南河内郡太子町職員	3.09~12	
小路展裕	大阪府南河内郡太子町職員	3.09~12	
古川立生	都教組・世田谷	3.10~	
古川 健	都教組・世田谷	3.10~	
山本 大	都教組・世田谷	3.10~	
江下靖子	京都鴨沂高校	3.11~	
藤井裕久	大阪市職青年部	3.12~	
井上明恵	大阪市職青年部	3.12~	
正田 進	大阪市職青年部	3.12~	
柳生 薫	福井高教組	3.13~14	
南部泰啓	福井高教組	3.13~14	
田中清幸	自治労大阪市青年部	3.15~	
松本康秀	自治労大阪市青年部	3.15~	
野口一郎	長崎高教組	3.18~	
古市哲朗	自治労大阪市青年部	3.18~	
久保本 学	自治労大阪市青年部	3.18~	
民野裕行	自治労大阪市青年部	3.18~	
角野康彦	自治労大阪市青年部	3.18~	
東 太滋	自治労大阪府職	3.21~	
伊藤正明	自治労大阪府職	3.21~	
五十嵐 徹	教員子息	3.25~	
山崎隆史	教員子息	3.25~	
葛西隆志	埼玉県教職員組合	3.26~	
本田陽一	京都市教職員組合	3.26~	
湯口博文	自治労大阪学職労	3.27~	
船越浩之	自治労大阪学職労	3.27~	
和田 茂	岡山高教組児島第一高分会	3.29~3.30	
和田知恵子	岡山高教組高松農薬高分会	3.29~3.30	
谷本 耕	香川県教組九尾養護学校分会	3.29~4.3	
井上節子	都教組南多摩支部平山中分会	4.01~	

③ 全国からの応援・激励

兵庫県に住んでいる高校生のみなさんへ

二の度の地震で、大変な被害を受け、家・家族、大切なものを失くしたみなさんのことを思うと、とても心が痛くつらくなりま

す。
私は昨年の8月、始めて兵庫にきました。沖縄と外人が多くてアメリカを感じますが、神戸はさらに異国文化をたどるわせて、すごくすてきなところだと思いました。その神戸が今は地震によって被害をうけただんてテレビをみても信じられませんが、でも私の泊まったホテルの近所の映像をみたときは、ゾッとしました。だからホテルがだいじょうぶだったのを知った時は、思わず涙がこぼれてしまいました。一日でも私は、兵庫県、そして神戸のまちが大好きです。一日でもはやく新しい、又、前のように美しい神戸、そしてみんなの笑顔がみれるように、共にがんばりましょう。

笑顔がみれるように、共にがんばりましょう。

私は、少しでもみんなの力になれるように、部活(ダンス部)のメンバーと、チャリティーダンス、スズパルをして、義援金を集める計画をしています。ホールを借りることができ、準備をすすめています。2時間の2回公演なので、けつこう集まると思っています。私達は毎年「神戸文化ホール」でおこなわれていた「オール・ジャパン・ダンス・フェスティバル」に参加しているお世話になって、この年で、日頃の感謝もこめて、義援金をあつめることにしました。今年も、又、参加し、神戸にいくことを楽しみにして、この年で、また元の神戸の街に、なっているように願っています。最後に、

「西宮甲山高校」「西宮高校」「神戸女子商業高校」「伊川谷北高校」「神戸工業高校」「夢野台高校」「兵庫商業高校」「神港高校」「伊丹高校」「武庫川高校」「加古川南高校」「篠山鳳鳴高校」「神戸野田高校」のダンス部、バトニング部のみなさん、全国大会でまたみなさんの笑顔がみえますように祈っています。

読谷高校 読谷村字楚辺 1279-54 居地
仲野 美奈子

阪神大震災被災地の高校生の皆様へ
前略 被災のお見舞い申し上げます。

はとてとても苦しい日々が続いてたいへんです。被災地の情報は、テレビや新聞などでよくはいけんしています。被害者の中には家族をなくした方、恋人をなくした方、親友をなくした方、さまざまに思っています。私は被害にあつたことがないから、わがやまといつも被害にあつた時の事を考えると、ぞ、ぞ、とします。お、より家族などをとくと、とてもつらいかもしれない。でも自分か生きていた事に感謝したいと思っています。
この被害で、大学受験をめくらめた方もたくさんいると思います。私は何もできないけど、私は私なりに思いをこめてこの手紙を書いています。この阪神大震災で、大きく人生が変わる人もいます。思います。でもくじけずに、めげずにみんなを支えあつて、いつかいい

方向に考えて、がんばって下さい。私達のかんさくの先生がよく言います。読谷高校のダンス部だけと、私達のかんさくの先生がよく言います。人間、いい方向にいい方向に考える事が必要だと。

私達の高校でもいろいろありました。義援金あつめなど、最近では三年生の写真を一枚百円で販売して、義援金としてあつめました。私の親類も兵庫県に住んでいて被害にあつた。震災があつたと聞いて、自分の親類がいる所だと知って、びっくりしました。電話で「家だ、けが被害にあつた」と聞いて、みんなは大丈夫だと知って、ほ、としました。いろいろたいへん、だとは思いますが、がんばって下さい。

おやま、つなぐ文で、ごめん、なさい。
被害にあつた皆様、これから幸せになれるよう、遠い沖縄から、いのちを祈ります。

読谷高校二年 玉城明香
中郷県読谷村字度慶次郎居地

阪神大震災救援高校生徒会全国交流会

(報告集)

と き : 1995年3月29日 14:00~
場 所 : 尼崎市 中小企業センター
呼びかけ団体 : 尼崎市内高校生徒会交流会
参 加 : 17高校 50名



大阪駅前では救援募金を訴える尼崎高校生徒会
交流会の仲間たち(1月29日)

被災高校生を励ます集い実行委員会

X. 「被災高校生を励ます集い」への参加の訴え

「集い」実行委員会代表 高橋 忠士(尼崎東高校生徒会長)
加集 宏(尼崎西高校生徒会長)

大震災から5ヶ月がたち、被災地では、全国の支援に支えられながら、生活と学校の復旧が始まっています。
ところが、被害が予想以上に深刻であることが、実態把握がすすむにつれて分かってきました。未だに、住宅や校舎の再建のメドさえ立たず、2万人もの人達が避難所暮らしを強いられ、倒壊を免れた住宅や校舎も損傷がひどく、梅雨の大雨の中で難儀しています。企業倒産・不況で生活基盤が崩れた、就職口が無くなったりしています。又、落ち着いて勉強できない状況が続く中で、進学も心配です。
このような状況だからこそ、私達高校生(生徒会)が救援を訴え続けることが、被災高校生を励ます最も大切なことだと考えています。又、そのことが、震災復興に社会の関心を向け続けさせる上でも重要なことと考えています。

震災直後から救援活動に取り組んできた全国の高校生徒会が力を合わせて震災の爪跡が残る中で頑張っている被災高校生(生徒会)を激励できたらという思いから、去る3月29日に開かれた「阪神大震災救援全国高校生徒会交流会」で、今年の夏に「被災高校生を励ます集い」を計画することとなり、現在準備を進めています。すでに、全国の多くの高校から参加の申込がきています。

全国各学校・地域で活動してきたことを夏の「被災高校生を励ます集い」に持ち寄り、被災地の実情を知り、お互いの活動を交流し、励ましあいたいと考えております。

先日、「集い」の会場の下見に行きましたところ、学校の体育館には今なお100人以上の避難者がおられ、不便な生活をされておられました。学校の周辺は焼け野原となっていて、潰れたビルの解体作業が続いていました。学校を案内してくださいました教頭先生からは震災当日学校の周辺を焼くくした炎が学校に迫ってきた地獄絵の様子をお聞きました。是非、震災半年後の被災地を直接見て下さい。そして、「集い」では、被災地で起きたこと、高校生徒(会)が頑張ったこと、全国の高校生徒会が一斉に救援に立ち上がった様子が構成詩の形で報告されますので、震災の様子をご理解頂き、被災高校生の力になってくださるようお願いします。
又、「集い」では、ミュージカルなどの楽しい文化行事も計画しています。夕方からは、「救援活動」と「生徒会活動」の交流を分断会に別れて行うことを計画していますので、是非、参加下さって、意義深い「集い」となるようにご協力下さるよう訴えます。

③ 全国からの応援・激励

生徒会役員皆さんへ

『阪神大震災・被災高校生を励ます集い』の案内

大地を震わせ、また多くの人々の心も震わせたあの震災から半年が経過しようとしています。

この半年の間に神戸を中心とする阪神・淡路地区は全国からの様々な形での暖かい援助や、ボランティアの人達の協力を得て『復旧』から『復興』へと新しい一歩を踏み出しました。

確かに神戸の街は少しずつ以前の姿を取り戻しつつあります。

しかし、今もお避難所での生活を送る人々や、仮設校舎での不自由な授業を行っている学校もあるのです。

この半年という時間は、被災し、心に深い傷を負った人々を癒すのに十分な時間と言えるのでしょうか？

そんな震災の爪痕が残る中で頑張っている被災地の高校生達（生徒会）を同じ高校生として激励できたら、と言う思いを込め、私達『阪神大震災救援全国高校生生徒会交流会』は7月30日に『被災高校生を励ます集い』を、被災地神戸で行う事を予定しています

貴校生徒会役員のみなさんがこの主旨に賛同していただき、また、参加していただく事を願い、この度案内状を送らせていただきました。

ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します

(4) 神戸の葦合高校を訪ねて

神戸の高校の生徒会との連絡がつかないのに、救援物資や義援金が届き出して私達は大いにうろたえた。神戸地域の場合、元々、生徒会の横の連絡が一切ないということと、深刻な被害の為に学校・生徒会活動再開のメ

ドが立たない状況となっていることが分かってきた。

幸い、中央区にある神戸市立葦合高校生徒会との連絡がつき、2/18(土)

尼崎の交流会より9名の役員が訪問して交流した。

席上「3人に一人が家を亡くし、今なお、学校に避難者が満ちあふれていて、学用品などの救援物資は十分あるが、学校で自由に使えるお金と欲しい。何よりも、勉強に専念できる場所が欲しい」と神戸の深刻な状況を聞くことができた。

そして、今後、葦合高校生徒会が神戸市立高校の窓口を、尼崎の交流会が全国と被災地高校の橋渡し役として連絡を取り合うことを約束した。



「被災高校生を励ます集い」実行委員会
世話人 高橋 忠士(尼崎市立尼崎東高校生徒会長)
加藤 宏(兵庫県立尼崎西高校生徒会長)

阪神大震災に

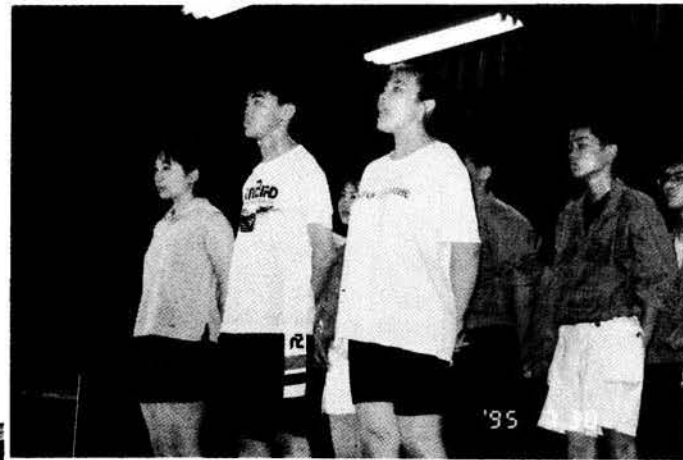
被災されたみなさんへ

～ 励ましのメッセージ ～

秋田県立西目高等学校土木科

秋田県由利郡西目町沼田新道2-142

TEL.(0184)33-2203



一月一七日未明に発生した地震は阪神間を中心に大きな被害を与え、五、五〇〇や人の死者・二七、〇〇〇人の負傷者を生み出す大惨事となった。市高でも高校一二校、幼稚園一〇園、障害児学校二校が避難所となるという突発的事態のなかで、教職員は避難住民の生活を守るために奮闘するとともに、同僚および生徒の安否確認にも全力で取り組んだ。

こうした献身的なとりくみは、緊急事態における学校園の果たす役割や意義の大きさを示すことになった。

市高は、ライフラインが壊滅した中、全国の仲間の支援もうけながら、執行体制の回復をはかり、被災した組合員の救済・学校園の円滑な再開等の課題に全力でとりくんだ。こうしたとりくみのなかで、困難な時こそ相互に助け合うという組合の存在意義も明らかになり、連帯感も強まった。

一、執行体制の回復

1・18(水)

書記局活動を開始。教職員・生徒の安否確認、学校施設の被害状況等の調査依頼、予算定員闘争の取り組みの停止について、各分会に緊急指示を出したが、十分に徹底することができなかった。

1・19(木)

緊急役員会。今後の取り組みの基本方向を確認、緊急に拡大闘争委員会を招集することを決定。

1・24(火)

緊急拡大闘争委員会。(P2 高教組)

この会議には救援にかけつけた日高教・全教の代表も参加され、奮闘している組合員に敬意を示すとともに力強く支援することを表明された(参加していたいたしたのは、日高教和田書記長・大阪府高教井委員長・京都市高今江委員長・高教組多上委員長・村上尼崎支部長・全教兵庫北河副委員長)。

各分会の状況がリアルに報告され、被害のすさまじさとともに避

難所になっている職場の奮闘が交流された。

当面、①被災状況の調査活動をすすめる、②被災組合員の救済にとりくむ、③学校再開にむけての基本方針の確認、④分会の要望をうけて市教委との交渉を強める。の四点について活動することを決定した。

1・31(火) 第二八回執行委員会(P1 高教組にて)

2・7(火) 第二九回執行委員会(同 右)

2・14(火) 第三〇回執行委員会(同 右)

2・21(火) 第三一回執行委員会(同 右)

二、全国からの支援

震災後すぐに全教・日高教の「救援対策本部」が高教組尼崎支部内に設置された。

市高は、本部と緊密に連絡をとりつつ、支援物資やボランティアの受入に努めた。

当初は混乱もあったが、次第にボランティアのあり方についても考え方が整理されてきた。

又、尼崎の高校生生徒会による高校生自らの支援活動の訴えは、全国的に反響を呼び注目を集めたし、神戸西高校の生徒文集は大きな感動を呼んだ。

市高に対し、全国の仲間から激励の電話、手紙、寄せ書き、カンパが多数寄せられている。組織の力の偉大さと仲間としての連帯感を感じさせられたところである。見舞金・カンパとして約一、五〇〇万円が寄せられた。

ボランティア活動も震災後から活発化。他府県からも多数参加され、市高はその窓口として奮闘した。

1・19(木)

日高教石井委員長を先頭に、支援物資が初めて東灘区へ。

1・22(日)

全教三上委員長、激励のため書記局へ。

4 復旧から復興へ—神戸市高の取組み—

1・28～29

全教近畿ブロックのボランティアが神戸へ入る。(約一六〇名)

2・4～5 同 右

2・6(月)

日高教東森書記次長来局。仙台市高、現地調査(ボランティア派遣)

2・11(土)

全教・日高教より市高へ見舞金三〇〇万円が送られた。市教委へも五〇〇万円が送られた。

2・12(日)

全教より学用品・文具が五〇〇セット送られてきた。(高教組で受け入れ)

2・14～15 全教特別大会(東京)

15～16 日高教特別大会(東京)

「希望するすべての避難民の住宅を確保すること」など四項目の緊急署名にとりくむこと、中央省庁交渉を早急に行うこと、現地のとりくみを強力に支援すること等が決まった。

2・18(土)

尼崎の高校生徒会代表、葺合高校生徒会と交流。高校生としての支援活動の内容について意見交換を行った。(葺合高校)

3・29(水)

近畿生徒会交流会が開かれ、夏に全国的な交流会を計画することを決めた。

三、防災指令三号発令下の勤務等について

地震の発生により、市立学校園は一月一七日から一月二一日まで、臨時休校(園)していたが、市教委は一月二三日から被害の少ない地域の一部の学校園で教育活動を再開する方針を示した。市高は一月二四日の緊急拡大闘争委員会の確認(①教職員・生徒の生命・安全を優先する。②避難所になっている学校については、避難住民の生活を優先する。教員も可能な限り協力する。③無理な出勤を強要せず、教員

は近くの学校、避難所での復旧に協力できる体制を市教委にとらせる。必要に応じて校長交渉する。④緊急事態なので臨機応変に対処する。校長にも同様の認識をさせる。)にもとづき、防災指令三号発令下の勤務等について折衝を重ねた。

●1・25(木)

地震後一週間を経過した時点での緊急要求をまとめ、市教委に申し入れた(別紙参照)。市教委は「今は非常事態なので、学校長を中心に臨機応変の対処をとってほしい。」とのべ、勤務についても「職場へ出勤するようできるだけ努力するのが原則だが、無理な場合は近くの避難所で活動する等頑張ってほしい。」との姿勢を示した。さらに、生徒の進路保障についても精力的にとりくむよう要請した。

●二月分給与については、基本部分等(給料、給料の調整額、扶養、調整、住居、教員特別、育児休業給付、産教、定時制、初任給調整、児童手当、通勤)は全額支給とし、超勤、特勤、等の実績部分については、一月一六日までの実績について支給されることになった。

●2・7(火)

市労連企画委員会。総務局と、防災指令三号発令中の服務について交渉し、一定の考え方をまとめた。市高としては県費との格差を生まないよう、又、各学校園で実情が異なるので柔軟な対応をするよう、市教委に要求した。

●1月26日以降の「無休の職免」の扱いについて市教委と交渉を重ねた。所属長の承認を得て出勤しなかった職員が、事後処理で不利益を被らないよう出勤簿で処理することになった。この間職場では、管理職の硬直した態度も目立ったため混乱も生じたが、今後執行部・分会一体となった職場交渉を強化する必要がある。

●2・7(火)

市教委の人事方針に対し「希望と納得の人事」等を要求する申し入れを行い、次のような回答を得た。

・「計画人事」というのは、人事を市教委が一括して行うという意味だ。現在、各校長からのヒアリングをしているところだ。

・五年、一一年という基準での移動は困難。量的にも少なくなるだろう。

・内示は三月二七日で変更していない。

・重点人事については各校の校長にもよく話をしておいてほしい。

これにもとづき、2/14(火)人対委員会で重点人事について集約し、申し入れを行った。

●2/13付で、震災に伴う手当の取扱いについての当局の考え方が示された。

●1/10の減員提示をベースに定員交渉を行い、震災後の混乱の中としては、大きな成果を上げた。

四、被災組合員等への救援活動

●1・31(火)

緊急拡闊の確認をうけ、個人ごとの被害状況の調査を始めた(調査用紙を配布)。救援委員会を設置し、判断の決定した部分から支給を開始した。

●全教共済の総合共済加入者に五、〇〇〇円の見舞金が支給された。幼稚園や点在組合員には、職場訪問をして渡した。

●市高独自の口座をもうけ、園児・児童・生徒への救援カンパを訴えた。全国へも呼びかけを行った。

〔口座〕 郵便振替 〇一一八〇一七一五二四九九

神戸市立高等学校教職員組合

●市高組合員のための法律相談窓口を開設した。(合同法律事務所 一一時～一五時 電話三七一一〇一七二)

●住宅問題をはじめとした各種の生活情報の紹介に努めた。市高ニュー

ス(速報版)は二四号発行された。各分会でも創意ある分会ニュースが発行され、職場活動に大きく貢献した。

●避難生活「経験者」に対し、全教・高教組から各一万円の見舞金が出ることになり、分会で調査集約の上、申請を行った。

●公立学校共済、学校厚生会、市共済の見舞金・貸付制度について、資料を分会に配布し世話活動をすすめた。

●高教組中央委員会の決定に基づき、被災組合員に対し、全壊二〇万円、半壊一〇万円の見舞金が支給されることになった。

五、学校園の再開にむけて

一月二四日の緊急拡闊での確認にもとづき、「授業再開をむやみに急がず、生徒の安全確認、専門家による校舎の安全チェック、通学の安全確認等を優先せよ」と市教委に申し入れた。各学校園において様々な努力工夫がなされ、次第に教育活動が再開されていった。市高も学校園の復興に全力をあげる立場で市・国(文部省)と交渉するなど奮闘した。

●神戸市の補正予算に対し、被害のひどかった分会を中心に、緊急の施設・設備要求をまとめ、市教委に提出した。二月一六日(木)神商が、二月一七日(金)神港がそれぞれ市教委に申し入れを行った。

●3・8(木)被害の深刻であった神商・神港・御影工の代表が、全教とともに文部省交渉を行った。「学校施設設備の再建を」「生徒の就学保障を」等写真を使った迫力ある追求に文部省も前向きな姿勢を示した。

●授業の再開にあたり、不足している学用品について実態調査を行った(全国に支援を訴えた。)

●2・9(木)御影工分会代表、市教委へ申し入れ。混乱した状況下で「日の丸・君が代」問題の新提案を行った校長の姿勢を改めさせた。

●学校再開を援助するためにということで送られてきた、全教の見舞金を各分会に配布した(三〇〇万円)。

●卒業式に電報を打ち、卒業生、保護者、教職員を励ました。

●ガスの停止に伴い幼稚園から出されていた「電気ストーブを入れてほしい」という要求について、交渉の結果、二月六日（月）より順次配置されることになった。

●被災した児童・生徒への「災害見舞金」制度を創設し、各分会で集約を行い、順次支給した（財源は、全教・日高教に寄せられた全国からの義援金、大都市高教からの義援金、カンパ等）。

一 支給対象園児・児童・生徒

① 死亡した園児・児童・生徒

② 全半壊、全半焼で自宅に居住不能の園児・児童・生徒

③ 同居の家族が死亡した園児・児童・生徒

二 見舞金の額

上記①の場合 一万円

上記③の場合 五千円

●震災により予算定員闘争は中止され、執行部役員が交渉に当たってきたが、三月二四日、市教委より九五年度の教育予算について説明を受けた。前進した面も。

資料1 神戸市の基本的な考え方

一 はじめに

平成七年一月一七日に発生した阪神・淡路大地震は、神戸市内だけでも三、八九一名にも及ぶ尊い人命を奪い、美しい神戸のまちを破壊した。

この震災で、多くの市民が愛する家族を失ったり、住み慣れた住まいや生活を支える雇用の場を奪われるなど、大きな打撃をうけました。又、神戸港をはじめ、道路や鉄道、ライフラインなど基幹的な都市イ

●震災後の初任者研修について、総合教育センターと交渉を行い、現場の実情を尊重するよう申し入れた。（3・22）

●入学式において「日の丸・君が代」の押し付けを行わないよう、市教委に申し入れを行った。（3・25）

六、その他

●震災後、被災状況にみあった救援を行うため、市高独自に救援委員会を設置し、見舞金の早急な支給に努めた。

●1・29（日）幼稚園部執行委員会

●2・17（金）幼稚園部執行委員会

●2・19（日）幼稚園部執行委員会、東灘、灘、中央区の職場を訪問

●3・3（金）高教組中央委員会

●3・7（火）市高第三回中央委員会

●3・23（木）新旧執行委員・分会長合同会議を開き、新年度にむけてのとりくみについて意思統一を行った（於：摩耶兵庫）。

●3・25（土）部・専門部会兼退職者を送る会を開催。震災にめげず元

気で頑張ろうという熱気に満ちた会となった（P11）私学会館）。

ンフラも大きな被害を受けた。さらに、神戸経済を支える基幹産業や地場産業、商店街なども甚大な影響を受けた。

この未曾有の災害を乗り越え、新しい神戸を再生するため、震災の経験から謙虚に学び、その教訓をまちづくりに生かすとともに、市民の英知とエネルギーを結集し、復興のまちづくりに取り組んでいかなければならない。

(1) 都市の機能性とゆとりとの調和

現代の都市は、多くの人々の多様なニーズに応えられるように、すぐれて機能的にできているが、これまでの想定を上回る地震により、自然の力の前でいかに脆弱な一面をもつかを思い知らされた。特に、

いわゆるインナーシティを中心とした既成市街地では、老朽木造住宅の密集や道路・公園などのオープン・スペースの不足により、被害が一層大きなものとなった。

安全は、都市に課せられた最も基本的な条件であり、都市機能の適正な配置や代替機能の確保など、都市の機能性とゆとりとの調和を図っていく。

(2) 自然の恩恵・厳しさとの共生

神戸は、海と山という自然条件に恵まれ、開港以来多くの人々が住み続けてきた魅力的な地域であったが、その反面過去に大水害や高潮、そしてこの度の震災など自然の厳しさを何度も経験してきた地域でもあった。

神戸はこれまでもみどりを保全・育成するとともに、自然との調和を図りながら都市整備を進めてきたが、今後も自然への畏敬の念を忘れず、同時に都市容量に配慮し、環境への負荷をできるだけ少なくすることにより、自然の恩恵・厳しさとの共生を図っていく。

(3) 人と人とのふれあいと交流

震災直後には、被害の甚大さにもかかわらず、市民は冷静さを失わず、お互いに励まし合いながら人命救助や避難活動を行った。その結果、震災の被害を軽減することができたが、これは、自律的な市民が豊かな市民文化を育んでいた何よりの証であり、私たちの誇りとすべきことである。今後も、人々の相互の交流を深め、市民主体の魅力あふれるまちづくりを進める。

震災後のまちでも、地域での被災者同士や外国人市民と日本人市民の助け合いなど、心温まるふれあいが数多く生まれた。又、ボランティアの献身的な救援活動や世界中の人々からの支援や励ましが、最も苦しくつらいときの私たちを支えてくれた。私たちは多くの物を失ったが、一方で人の心の大切さを身を持って知ったことは、なにものにも代えがたい貴重な財産である。

人命の尊さを胸に刻むとともに、すべての人が等しく尊重され、ともに生きる、世界に開かれた都市として、人と人とのふれあいと交流を大切にしていく。

二 基本的課題

復興にあたっては、次に掲げる項目を私たちに課せられた基本的課題として認識し、その解決に向け全力で取り組んでいかなければならない。

(1) 本格的復興に向けての市民生活と都市基盤の早期復旧

震災により家族やすまい、あるいは働く場を失うなど社会的・経済的弱者となった多くの市民の生活自立促進やこころのケアなどきめ細かい支援を行うとともに、壊滅的な被害を受けた神戸港や高速道路をはじめ都市基盤の早期復旧をはかり、市民生活と神戸経済の安定を確保し、本格的復興に向けて効率的に取り組んでいかなければならない。

(2) 震災の教訓を生かした災害に強い都市づくり

この度の震災は、機能的で高度に発達した都市の脆弱な一面を浮き彫りにした。安全の確保が都市の基本的条件であることを肝に命じ、災害時でも被害を最小限にし、都市機能を確保できる災害に強い都市づくりを進めていかなければならない。

(3) すべての人が安心して暮らせる福祉社会の構築

震災の経験から、市民福祉の実現には、ノーマライゼーションの理念のもとに、すべての市民が、ともに助け合い、ともに暮らすという参加と協働による地域づくりが最も重要であることが再確認された。子どもたちも老人も障害者も外国人も、だれもが安心して暮らせる福祉社会の構築に全力をあげて取り組んでいかなければならない。又、復興の過程で、最も弱い立場に迫いやられた人々が犠牲になることのないよう十分留意する必要がある。

④ 復旧から復興へ—神戸市高の取組み—

(4) 多様性、開放性に富んだ神戸文化の復興

震災の打撃の大きさにもかかわらず、復興に立ち上がる市民の冷静な行動は、テレビ等の映像を通じて、世界の人々に伝えられ、大きな感動を与えた。また、外国人市民と日本人市民が協力して震災を克服するなど、新たな交流も生まれた。復興のまちづくりにあたっても、多様な文化や価値観を認め合い、ソフトウエア（知恵）やヒューマンウエア（心）を重視しながら、生活にゆとりとうるおいを与える神戸文化の復興とさらなる成熟を図っていかなければならない。

(5) 環境にやさしい持続的発展が可能な都市の創造

震災により劣化した環境の修復と新たな環境創造が求められている。今後、都市の容量に余裕をもたせながら成長を管理し、自然と共生する環境への負荷の少ない持続的に発展することのできる都市の創造を進めなければならない。

(6) 二一世紀を先導する国際都市としての再生・復興

二一世紀を目前にひかえ、単に都市機能を震災前の状態に復するのではなく、以前にもまして住みやすく、質の高い魅力あふれるまちとしての復興を図ることが求められている。神戸が培ってきた国際性や海・空・陸の総合交通拠点性を生かし、世界の人・物・情報の交流が新たな文化や産業を生み出す活力ある都市として復興しなければならぬ。また外国人市民にとってもさらに住みやすいまちづくりを進めるとともに、就学、医療、雇用等を積極的に支援していかなければならない。

(7) アジアのマザーポートとしての神戸港の早期復興

わが国を代表する国際貿易港である神戸港は、国内外の産業経済活動に重要な役割を果たすとともに市民生活や地域経済に大きな位置を占めており、神戸の復興は神戸港の復興なくしては考えられない。震災を乗り越え、最新鋭の港湾施設整備を推進するとともに、港の情報

化や利用コストの削減努力などにより国際競争力を強化し、二一世紀のアジアのマザーポートづくりを進めなければならない。

(8) 情報ネットワーク社会の実現

震災直後には、電話網の混乱などにより情報の収集や伝達が円滑にいかない状況となり、水道・電気・ガス等のライフラインとともに情報の重要性が改めて認識された。今後、震災後に大きな力を発揮したインターネットをはじめ多様な情報通信手段の整備を図るとともに、マルチメディアを活用し、市民の日常生活を豊かにし、災害時にも機能する情報ネットワーク社会を先導して築いていかなければならない。

(9) 協働によるまちづくりの推進

復興の主役は、地域に住み、働く市民である。新しいまちづくりを進めていく過程でも、まちづくり協議会などの場で、市民の参加と対話を図り、市民・事業者・市がそれぞれの役割分担のもとにパートナーシップを確立し、協働のまちづくりを推進していかなければならない。

(10) ボランティア活動の支援と広域連帯の推進

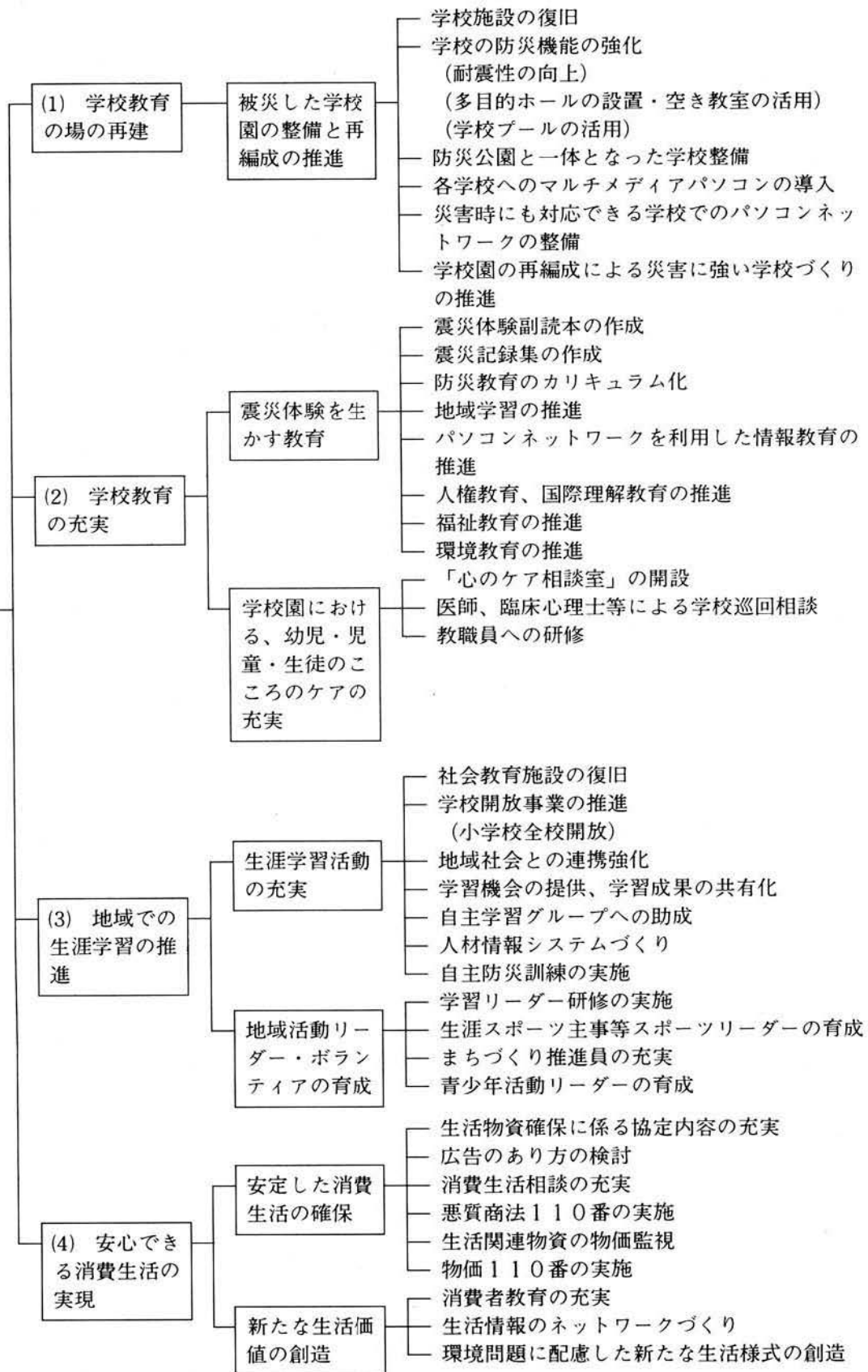
震災直後から、ボランティアの人々や国内外の各都市・各機関から緊急の救援活動をいただいた。この度の震災後には必ずしも円滑なボランティアの受け入れができなかったことをふまえ、今後は、これらボランティアの人々の活動を支援していくとともに、都市間協力、国際協力等広域的な協力・連携体制の整備を進めていかなければならない。

(11) 災害文化の継承と世界への貢献

この度の震災の経験や教訓を風化させることなく、私たちの子孫や世界の人々に正しく伝えていくことは、私たちの使命といえよう。また、先駆的な国際防災モデル都市として復興を成し遂げることにより、世界の人々の温かな励ましに応えていかなければならない。

施策の体系

豊かな心を育むくらしの実現



(『神戸市復興計画』より)

資料2 次の震災にそなえて

藤原 裕司（神戸市高前書記長）

① 被害、生活、救援など情報の集約、連絡体制の確保
神戸市当局も学校もまず始めに、「何がおこったのか」全容を掴むことから始めた。

たまたま電気が早く復旧したため、テレビを通じて次々と情報が入ったが、電気が復旧していないところでは周りの動きがわからず不安だった。正確な情報をできるだけ多く集約し、それを皆に伝える体制を整えることが非常に重要だ。市高でもまず各職場の被害状況と組合員の安否の確認から始め、それを電話やファックス、郵送、配達で知らせた。

② 防災指令三号下の勤務体制

防災指令三号が何かを知っていたのは管理職を含めて余りいなかった。また神戸市の定める防災体制についても、今回のような被災を想定していないため、まったく不十分な内容になっている。特に学校が避難所になることは全く想定しておらず、本来区役所が中心になつてやるべきことを教職員が対応せざるを得なかった。また三号が発令されたときに勤務校へ行くことが大切であることはわかるが、最初の一周間の仕事の内容を考えると、各自が近くの学校へ応援に行くほうがより効果的であつたと思う。交通手段が復旧するまでの体制について当局と協議する必要がある。

③ 縦線での応援体制

震災後すぐに全教の対策本部が尼崎に設置され、全国との窓口になり、ボランティアや救援物資の受入れ窓口になってくれ、非常に助かった。また大都市高教組連絡協議会の窓口を大阪市高が引き受けてくれ連絡をとってくれた。非常時のお互いの救援体制を県、ブロック、全国レベルで作っておくことが重要である。

④ 迅速、柔軟な取組、救援体制

幼稚園の支援については本来なら市教委がやるべきことを組合が音頭をとって支援体制を組んだところが多い。また市教委もそれを依頼してきた。日頃から当局との友好な？関係がないとこのようなことはできないだろう。また組織率の高さがその背景にあることも見逃せない。特に、一、二〇〇人を越える児童・生徒への見舞金の給付体制が取れたのもこのためである。

最初に渡すことができたのは全教共済加入者への五千円、市高の救援規定に基づく全壊・半壊者への見舞金の支給。次に、全国からのカンパをもとに被災した児童・生徒への見舞金の支給。これらは額は少ないが、困っているときはとにかく早急に対応することが大切であり、組合の評価を高める。

全教共済の対応の早さに比べ、日教済兵庫支部と第二組合のセクト的な対応には教師としてのモラルに欠けるものを感じた。また学校厚生会と兵教組が一緒になって各種の救援をしたが、それを組合の宣伝に利用するなど、公正であるべき学校厚生会のあり方にも問題があった。

「もし大地震がおこったら」……個人の準備

① 本人、家族の安全確認、救助。必要な場合は避難。近隣の人命救助。

② ガス・電気の確認。二次災害の防止。

③ 水の確保。

④ 片付ける前に屋内外の写真を撮っておく。

⑤ 電話、車は緊急以外は使わない。

⑥ 日頃からの準備

・懐中電灯、ラジオ ・高いところに物を置かない、その下で寝ない ・ポリタンク、カセットコンロなどキャンプ用品が役に立つ

神戸市立高等学校教職員組合組織一覧

高校・高専・障害児学校

校 名	TEL	FAX	〒	住 所
神 戸 商 業	431-0055	431-0033	658	東灘区西岡本 2 丁目 25-1
赤 塚 山	811-0401	811-7003	658	東灘区住吉山手 7 丁目 2-1
御 影 工 業	841-0725	811-6065	658	東灘区御影中町 3 丁目 2-1
葺 合	291-0771	271-5614	651	中央区野崎通 1 丁目 1-1
神 港	579-2000	579-2030	652	兵庫区会下山町 3 丁目 88-1
兵 庫 商 業	591-1121	591-8920	651-11	北区鈴蘭台北町 1 丁目 24-1
須 磨	731-2803	731-0625	654	須磨区若木町 4 丁目 3-1
神 戸 工 業	792-5095	795-1451	654-01	須磨区西落合 1 丁目 1-5
神 戸 西	961-0321	961-6492	651-22	西区平野町慶明字宮山183
御影工業定時制	856-7311	811-6065	658	東灘区御影中町 3 丁目 2-1
摩 耶 兵 庫	360-1316	360-1318	650	中央区東川崎町 1 丁目 3-8
長 田 工 業	631-4838	631-7317	653	長田区松野通 3 丁目 2-34
楠	521-4700	521-6450	652	兵庫区松本通 1 丁目 1-1
神 戸 高 専	795-3311	795-3314	651-21	西区学園東町 8 丁目 3
市 立 盲 学 校	360-1133	360-1136	650	中央区東川崎町 1 丁目 4-2
友 生 養 護	851-0630	851-8924	658	東灘区住吉東町 4 丁目 1-58
青 陽 東 養 護	871-1800	871-1950	657	灘区岩屋北町 6 丁目 1-1
青 陽 高 等 養 護	793-1006	793-1007	654-01	須磨区西落合 1 丁目 1-4
垂 水 養 護	709-7555	709-7582	655	垂水区旭が丘 2 丁目 1-15
青 陽 西 養 護	781-1543	781-1544	655	垂水区狩口台 3 丁目 1-3

幼稚園

分会	園 名	TEL	〒	住 所
東 分 会	深 江	411-0667	658	東灘区深江北町 3 丁目 11-3
	本 庄	411-2650	〃	〃 深江本町 4 丁目 3-9
	本 山	451-1188	〃	〃 本山中町 1 丁目 2-35
	魚 崎	411-9647	〃	〃 魚崎中町 4 丁目 10-39
	遊 喜	851-8512	〃	〃 住吉宮町 1 丁目 8-8
	呉 田	851-8773	〃	〃 住吉南町 4 丁目 6-26
	住 吉	851-6650	〃	〃 住吉宮町 7 丁目 2-6
	住 台	841-3114	〃	〃 住吉台 25-7
	御 影	851-2030	〃	〃 御影石町 3 丁目 13-1
中 分 会	西 郷	861-4550	657	灘 区大石東町 6 丁目 2-2
	稗 田	861-1310	〃	〃 大内通 5 丁目 2-18
	六 甲	891-1043	657-01	〃 六甲山町北六甲4512-42
	あ 山	231-0015	651	中央区吾妻通 4 丁目 1-6
	神 戸	331-4469	650	〃 北長狭通 4 丁目 9-17
	清 風	341-1317	〃	〃 中山手通 7 丁目 25-24
	港 島	302-3300	〃	〃 港島中町 3 丁目 2-10
	楠	521-0267	652	兵庫区下三条町10-8
	兵 庫	575-4774	〃	〃 永沢町 3 丁目 7-12
	御 崎	681-3571	〃	〃 御崎町 2 丁目 16-25-411

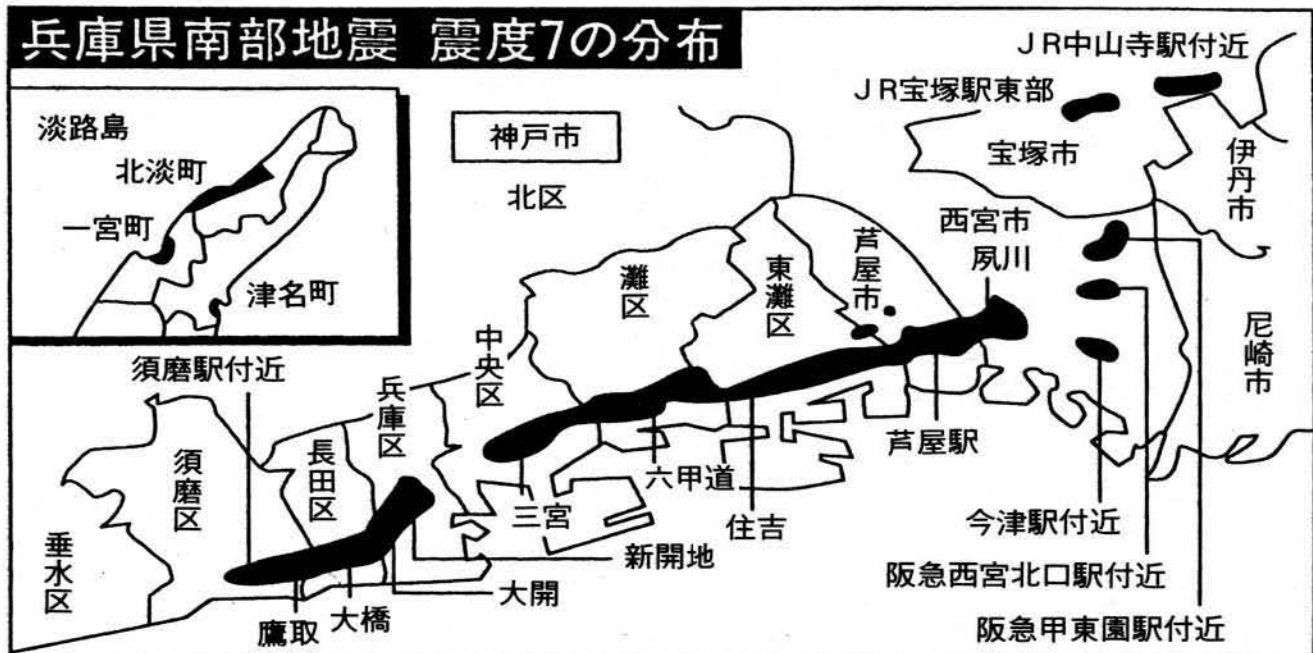
④ 復旧から復興へー神戸市高の取組みー

分会	園 名	TEL	〒	住 所
	古 庫	004-0240	651-14	北 区古庫町1000

阪神・淡路大震災をよめる。えに考える。
P63 に入れて下さい。

分会	園 名	TEL	〒	住 所
垂水分会	名 谷	707-2482	655	垂水区名谷町字大谷1896
	名 泉 丘	752-0922	〃	〃 王居殿3丁目6-1
	東 高 丸	752-0700	〃	〃 青山台4丁目8-30
	上 高 丸	709-5226	〃	〃 千鳥が丘3丁目10-37
	垂 水	707-2543	〃	〃 旭が丘1丁目8-22
	多 間 台	781-2081	〃	〃 多間台3丁目9-12
	奥 の 池	781-3501	〃	〃 狩口台3丁目1-5
	多 間 南	783-3386	〃	〃 本多間6丁目26-10
	多 間 東	783-5866	〃	〃 学が丘4丁目6-1
	小 束 山	784-2660	〃	〃 小束山7丁目868-735
西神分会	長 坂	974-3977	651-21	西 区伊川谷町長坂字重塚909-1
	太 山 寺	974-0021	〃	〃 伊川谷町前開860
	伊 川 谷	974-0022	〃	〃 伊川谷町別府1342
	榎 谷	991-0331	651-22	〃 榎谷町池谷字山の谷203-2
	木 津	994-3811	〃	〃 押部谷町木津71-5
	押 部 谷	994-0279	〃	〃 押部谷町西盛字垣内174
	美 穂 が 丘	994-3620	〃	〃 美穂が丘5丁目101-2
	玉 津 第 一	928-4724	651-21	〃 玉津町出合字古瀬183-5
	玉 津 第 二	912-5771	〃	〃 玉津町新方字南方452-3
	玉 津 第 三	927-8485	〃	〃 玉塚台2丁目76
	平 野	961-2011	651-22	〃 平野町宮前字広畑275-2
	神 出	965-0088	651-23	〃 神出町田井字田井前425-2
	岩 岡	967-1531	651-24	〃 岩岡町古郷267

竜 が 台	793-1877	〃	〃 竜が台6丁目15-2
す が の 台	791-0133	〃	〃 菅の台4丁目3-1





編集後記

震災では全国の非常に多くの仲間みなさんにお世話になり深く感謝します。震災から3カ月が過ぎ、各職場も一応落ちついてきた時に、「震災のまとめ」を発行して、全国のお世話になったみなさんの参考にしてもらおうと言うことになりました。

今回のような大地震はそう度々起こるものではないと思いますが、いざ起こった時には日頃の街作りや、防災体制の弱点が一度に現れ、社会的な弱者がその犠牲になりました。水道、ガス、電気、交通などのライフラインが長い間止まり、避難場所ではない幼稚園や高校が避難所になり、半年に渡って避難所と学校との共存が続いています。また、今回の地震はたまたま早朝に起こりましたが、これが日中に起こっていればその被害は二倍にも、三倍にもなっていたでしょう。神戸市ではやっと「震災に強い街作り」が始まったばかりですが、「震災」が起こったときの体制を街全体や職場、家庭で作っておくことが大切です。

各学校ではそれぞれの「まとめ」を作っています。この「震災のまとめ」は地震のあった1月17日から3月末までの出来事や取り組みを、組合としてまとめたものです。追って、資料編も発行する予定です。このまとめがみなさんの地域や職場、家庭で今後の参考になれば幸いです。

最後に、投稿していただいた皆さんや、無断で掲載させていただいた全教・日高教や大教市高協の皆さんにお詫びと感謝いたします。

1995年8月

編集委員 藤原 裕 司
和田 信
西井 和 重

00095052274